

# 聖徒の道

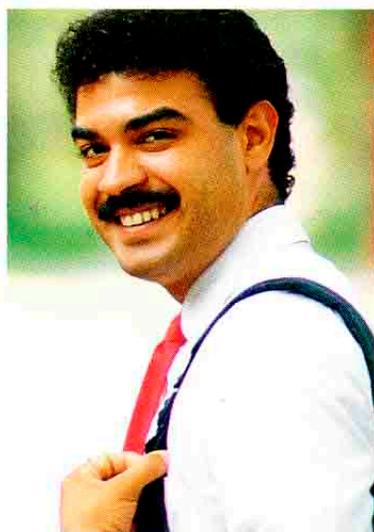
3  
1991



末日聖徒  
イエス・キリスト  
教会

# 聖徒の道

1991年3月号



表紙——

ブルックリン第2ワード部長老定員会会長会の一員、ギルバート・ドルタ兄弟の笑顔は、ニューヨークのブルックリンの聖徒たちの明るさを物語っている。（「世界の窓、ブルックリン」p.36参照）

## 一般

大管長会メッセージ——手 第二副管長トーマス・S・モンソン .....	2
過越の祭りの約束を成就した最後の晚餐 テリー・W・トレサダー .....	12
「イエスさまもまえに わたしのようなこどもでした」 R・バル・ジョンソン .....	25
二度目のバプテスマ ゲイ・ガルト .....	30
バルター・スパットと南アメリカ最初のステーキ部 ネウザ・ロング .....	32
世界の窓、ブルックリン グレン・ネルソン .....	36
鳥のさえずりとスマレ トーマス・J・グリフィス .....	42

## 青少年

親友 ゴーラ・ホワイティング .....	8
罪——赦されても忘れられないもの ヘザー・オブライエン .....	20
友達 パトリシア・R・ローパー .....	46

## 定期特別記事

読者からの便り .....	1
家庭訪問メッセージ——「一人一人」、個人の証を培う .....	24

## こども

モルモン経物語——ジェレドの民のめつぼう .....	2
歌——信じていのる ジャニス・カップ・ペリー .....	5
ジェイミーのあかし パトリシア・ワーノック .....	6
おもちゃばこ——絵で答えよう ジュリー・ウォーデル .....	9
分かち合いの時間——聞く耳を持ちましょう ローレル・ロールフィンク .....	10
たんけん——素晴らしい「わたし」 ジョイス・レスリー .....	12
復活 サンドラ・C・ネルソン作 .....	14

# 聖徒の道

1991年3月号

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン  
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット  
顧問：レックス・D・ピネガー、ジーン・R・クック、ジョン・H・グローバーク、ロバート・E・ウエルズ  
編集長：レックス・D・ピネガー  
教科課程管理部実務部長：ロナルド・L・ナイトン  
教会機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン

## 国際機関誌

編集主幹：フライアン・K・ケリー  
編集主幹補佐：マービン・K・ガードナー  
編集副主幹：デビッド・ミッチェル  
編集補佐/こどものページ：ティエーン・ウォーカー  
工程管理：ダイアナ・パンシュターフェレン  
チーフアートディレクター：M・マサト・カワサキ  
アートディレクター：スコット・D・パン・カンペン  
デザイナー：シェリー・クック  
制作：レジナルド・J・クリステンセン、ステイブ・デイトン、ジェーン・アン・ケンプ、デニス・カービー  
配送部長：ジョイス・ハンセン  
聖徒の道 1991年3月号第35巻第3号  
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106 東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351  
印刷所 株式会社 精興社/クロスロード  
定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)  
半年予約1,100円(送料共)  
普通号150円、大会号350円

International Magazine

ITEM 91983 300

Printed in Tokyo, Japan.

Copyright © 1991 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課☎03-3440-2351(代表)●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター☎044-811-0417

The *Seito No Michi* (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to *Seito No Michi* at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

## すばらしいみたま

1990年5月号の「リアホナ」(スペイン語版)を読んでいて、すばらしいみたまに満たされました。そのときの喜びを皆さんにお伝えしたいと思います。特にチリのイエフィー家族についての『私たちはとても祝福されています』には本当に感動しました。遠く離れた所に住んでいても、イエフィー家族には心からの愛を覚えます。主の業への彼らの信仰と愛の模範に感謝します。

ほかにも感動的な記事がありました。たとえば、ユタのデービス家族がハンガリーのケステー家族に福音を教えようとする記事(『とにかく始めよう』)や、ポルトガルのモーレイラ兄弟の記事(『兄弟愛』)など、とにかくみんなすばらしかったのです。5月号が良かったと感じたのは、たぶん伝道特集号であり、また私の夫がベネズエラ・カラス伝道部長に召されているからだと思います。

私たちは「リアホナ」をいつも伝道の道具として使い、求道者へのプレゼントに役立ててきました。皆、受け取り喜んで読んでくださっています。

私たちは教会員となって16年ですが、「リアホナ」は全部取ってあります。編集部皆さんの良い働きに感謝しています。これからも「リアホナ」を購読するのを楽しみにしています。ベネズエラ・バレンシアステーク部  
ナグアナグアワード部  
エステラ・デ・ホフマン

## 目標を設定する

私の身に起きたことを皆さんにお伝えしたいと思い筆を執りました。「リアホナ」(スペイン語版)の最後の記事

を読んでいたときのことで、私にはあまり大切な記事だとは思いませんでした。でも何もすることがなかったのに、とにかく読むことにしました。しかし最後まで読んだ私は、その記事がどれほど私を力づけてくれたかをぜひお知らせしたい、そして感謝の気持ちを表わしたいと思うようになりました。

私の家族で教会員は母と兄と私だけです。私は1989年1月にバプテスマを受けました。それ以来、「リアホナ」の大管長会メッセージやそのほかの記事を読んで、私たちの証は強められてきました。

私は17歳ですが、これまでだれにも手紙を書いたことがありませんでした。親戚や伝道に出た友達に対してでもです。でも今は友人や親戚に手紙を書くという目標を立てています。そのことから、「リアホナ」が私に大きな影響を与えていることがわかります。

メキシコ・ベラクルス

ダニエル・カスティージャ・オルティエス

## 国境を越えて

これまで長い間、皆さんのすばらしい働きに対して感謝の気持ちをお伝えしたいと思ってきました。

私たちはカナダに住んでいますが、母国語はスペイン語です。ですから、毎月「リアホナ」を心待ちにしています。「リアホナ」によって私たちの証は強まり、生活に祝福がもたらされました。「リアホナ」は国境を越えて、世界中の兄弟姉妹を福音によってひとつに結びつけてくれます。

カナダ・バンクーバーステーク部

バーナビーワード部

マイラ・リスベト・モンソン・モラ



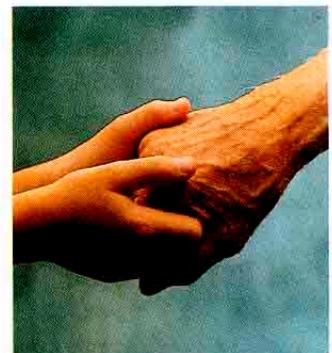
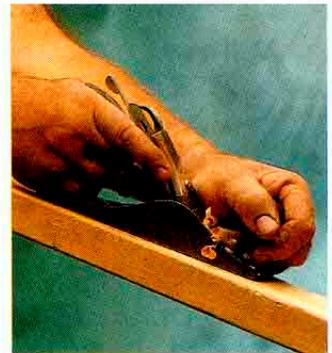
# 手

大管長会第二副管長  
トーマス・S・モンソン

赤ん坊の小さな手はひとつの奇跡です。大きくなるにつれて、手はそのほかの奇跡、すなわち愛と慰め、労働と奉仕を行なうようになります。

ナザレのイエスは人々の間で教えと導きを施されたとき、当時の律法学者たちのようにではなく、たとえ話を使ってだれにでもわかる言葉で語られました。イエスの教えは人々の心を動かし、新しいいのちに生きる力を与えました。野山の羊飼いや畑の種まき、網を打つ漁師などの身近な題材を通して、主は永遠の真理を教えられたのです。

見えなかった目が見え、聞こえなかった耳が聞こえ、かたくなであった心が悟るといふ主の言葉を聞くと、神により創造され、すばらしい力を備え、細部に至るまで精巧な仕組みから成る人間の体が新しい意味を帯びるようになります。主はその教えの中で、顔や鼻、脇腹や背中、足などを指して語っておられます。さらに、もうひとつ、人間の手について語られるときは、重要な意味があります。手は、画家や彫刻家にとってキャンバスに描いたり粘土で形を作ったりする際、人間の体の中で最もむずかしい



部分であると考えられており、見れば見るほど感動的な器官です。年齢や肌の色、大きさや形などにより、この創造の奇跡とも言える手のすばらしさが損なわれることはありません。

まず第1に、子供の手について考えてみましょう。赤ん坊を腕に抱いたときに、神を賛美し、神の力に感動したことの無い人はいないでしょう。ごく小さいながら完全な赤ん坊の手はすぐに話題の種となります。だれでも、しっかりと握りしめた赤ん坊の手の中にそっと小指を差し込んでみたくなることでしょう。そして思わずほほえみ、目を輝やかさせ、ある詩人が次の詩を書いたときのやさしい気持ちを味わうことでしょう。

「赤ん坊、それはこの地上で花開くために、  
神の家から降りてきたばかりの、  
人間の形をした美しいつぼみ。」

赤ん坊は大きくなるにつれ、しっかりと握りしめていた手を広げ、全幅の信頼を表わすようになります。「お母さん、私の手を取って。そうすれば怖くない。」子供はそう言って信頼感を示すのです。幼い子供たちが美しい声で歌う次の愛らしい歌は、忍耐を身に付け、教えを学び、奉仕することの大切さを教えています。

「わたしはふたつのがある  
それはちいさくてよわいけど  
ひがくれるまでいちにちじゅう  
いろいろのこといたします

かみさまこのてをかんしゃします  
そしてこのてがまもること  
おぼえたらいつもたのしく  
いられるようにねがいます」  
(『わたしのおてて』「子供の歌」B-74)

このような愛と信仰に感動を覚える親は、忠誠を誓う、

すなわち正しいことを行なうと決心するはずで

さらに強調する必要があるならば、弟子たちがイエスのもとへ来て次のような質問をしたという話を引用したいと思います。

「『いったい、天国ではだれがいちばん偉いのですか。』すると、イエスは幼な子呼び寄せ、彼らのまん中に立たせて言われた、『よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう。……また、だれでも、このようなひとりの幼な子を、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。しかし、わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまづかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が、その人の益になる。』」(マタイ18：1-3, 5-6)

次に、若人の手について考えてみましょう。青年期は、手をよく動かして学ぶ訓練の期間です。正直に努力し、愛に満ちた奉仕をすることは、充実し、喜びにあふれた生活の特徴です。ある若い女性のクラスでは、クッキーを焼き、近所の老人ホームにいる高齢の婦人にプレゼントしました。そのとき、若い少女たちは正直と奉仕についてよく学ぶことができました。寂しいおばあさんの年老いた手が、思いやりにあふれた十代の少女の手をしっかりと握りしめました。言葉はひと言も交わされませんでした。心は通じたのです。クッキーを焼いた手が涙をぬぐいました。そのような手こそ清い手であり、そのような心こそ潔い心だと言えましょう。

そしていつか、少年の手が少女の手を取り、子供たちが大人になったことに両親が突然気付く日がやってくるのです。少女の指に神聖な誓いのしるしである指輪が輝やくときほど、少女の手が美しく見えるときはありません。また少女の足どりは軽やかに、表情は明るく、世の中がすべてバラ色に見えます。求婚期間が過ぎて結婚式を迎え、再びふたりの手が、今度は神殿の中で握りしめられます。世の煩いもしばしの間忘れ去られ、思いは永遠に変わらぬ価値あるものに向けられます。ふたりは手を握りしめて互いへの忠誠を約束し、天国にいるような

気持ちを味わうのです。

時が流れ、花嫁の手は母親の手となり、この上なくやさしく、大切な子供を世話するようになります。子供をお風呂に入れ、服を着せ、食物を与え、慰める母の手に勝るものはほかにありません。母親の温かい世話は年を経ても終わることはありません。私はある母親の手を今でもよく覚えています。それは宣教師の母親でした。数年前、世界的な規模の伝道部長セミナーが開かれた時のことです。宣教師たちの両親が招待され、伝道部長に会って少し話す機会がありました。一人一人とあいさつを交わし、親しみのこもった握手をしました。その人たちの名前は覚えていませんが、今でも忘れられないのは、ワイオミング州のスターバレーから来たある母親が差し出した荒れた手を握りしめたときに感じた思いです。「こんなザラザラの手ですみません。」そう謝りながら、彼女はこのように語りました。「主人が病気になり、宣教師として主に仕える息子のためにも私が農園の仕事をしなくてはならなかったのです。」涙を抑えることができませんでしたが、抑える必要もありませんでした。そのような涙には魂を清める力があるのです。その青年は母親にとってはもちろん、私にとっても特別な存在となっています。母親の労働が息子の奉仕を聖めたのです。

次に見過ごしてはならないのは父親の手です。優れた外科医や工芸家であろうと、有能な教師であろうと、父親の手は家族を養う支えです。正直で勤勉な労働には確固とした威厳があります。世界恐慌のとき、私は幼い少年でした。当時は職に就いている人は幸運でした。仕事の口は少なく、働く時間は長く、報酬はわずかでした。私の家の近くに、娘が何人もいる大家族を自らの手で養っていた年老いた父親がいました。彼の経営する会社はスプリングキャニオン炭鉱会社という名前前で、あるものといえば1台の古いトラック、ひと山の石炭、1本のシャベルとひとりの労働者と自分の両手だけでした。朝早くから夜遅くまで彼は休む間もなく懸命に働きました。それにもかかわらず月例の断食証会では、家族と仕事と証に対して主に感謝を捧げていました。私はそのような

彼の姿をよく覚えています。あるとき、私の後ろの席に座っていたジェームズ・ファレル兄弟が、少年ジョセフ・スミスがニューヨーク州パルマイラの近くの森の中でひざまずいて祈り、天父と御子イエス・キリストの示現を受けたことについて証しました。振り返ってふと見ると、私の腰かけていた長いすの背を握っていた彼の赤くひび割れたゴツゴツした手が白くなりました。私の目に焼きついているファレル兄弟の手を思い出すたびに、私はその父親の揺るぎない信仰と心からの確信、真理についての証を思い起こすのです。

数年前、ハロルド・B・リー大管長は靈感と啓示の導きにより、デウィット・J・ポール兄弟を合衆国東部のあるステーキ部の祝福師に召しました。その召しを受けたポール兄弟姉妹は言葉では到底表現できないほど謙遜な気持ちになり、驚き、不安になりました。ふたりはこの召しが確かに神からのものであるかを祈り求めました。

人々は支持の挙手により彼の召しを承認しました。そして聖任の時がやって来ました。ステーキ部の集会所の地下にある部屋で、デウィット・ポール兄弟は落ち着いた気持ちでいすに腰かけ、心の中で祈っていました。ポール姉妹の隣には、彼女が心の内を打ち開けた親友が座っていました。この親友が次に起こったことについて大変珍しい、霊を鼓舞する話をしてくれました。

「リー長老が、座っていたポール兄弟の後に立ち、ポール兄弟に<sup>あんしめ</sup>按手しようとして両手を上げたとき、あたかも30センチ四方の天窓から差し込んできた日光のような非常に明るい光が突然リー長老の頭の上を照らしました。リー長老がポール兄弟の頭の上に手を置いて、祝福を述べ、聖任しようとしたまさにその瞬間に太陽が輝く光を照らし出したのはなんというまれな出来事でしょう。それはまさしく神から下された召しを確認する経験でした。ところが突然、私はその地下の部屋には日光が差し込むような窓はないことに気づいたのです。」

苦悩は平安に取って代わり、信仰が疑惑を克服しました。予言者の手は実に貴いものです。

最後に、もうひとつの大切な手、すなわち主のみ手に



ついでにお話ししましょう。その手はモーセを導き、ヨシヤを励まし、次のように述べてヤコブに約束した手です。「恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしは……わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。」(イザヤ41：10)その手は、神殿から両替人を追い出した強い手であり、幼い子供たちを祝福した愛に満ちた手です。また、聞こえなかった耳を開け、見えなかった目に視力を取り戻した手です。主のみ手により、ハンセン病患者が清められ、足の不自由な人がいやされ、死んだラザロさえも生き返ったのです。主は指で地面に何か書かれたことがあります。砂に書かれた文字は風が消し去りますが、み言葉は偽りのない人の心に刻まれて消えることはありません。それは大工の手、教師の手であり、キリストの手です。

総督ピラトは人々の前で手を洗いユダヤ人の王と呼ばれたイエスの血について自分には責任がないと言いました。なんと愚かで優柔不断な人でしょうか。そのような罪を水で洗い流せると本当に信じていたのでしょうか。

「突き刺されし主の手を思い  
その愛と恵み忘れ得ず  
み座の前にひざまずいて  
主のみ恵みをたたえまつらん」  
(『主イエスの愛に』賛美歌109番)

罪を犯す手は哀れまれ、絵を描く手はうらやまれ、何かを作る手は尊重され、人を助ける手は感謝され、奉仕する手は尊敬されます。人を救う神の御子、全人類の贖い主イエス・キリストの手は崇められます。主はそのみ手で私たちの心の扉をたたき、こう言われます。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはい……るであろう。」(黙示3：20)

私たちは主の声に耳を傾けるでしょうか。私たちの人生の扉を開け、主のみ前へ向かって歩むでしょうか。自

分自身で答えを出さなくてはなりません。

この世の人生という旅路を行く私たちは、自分に定められた道の行く先に黒雲が見えることもあります。将来どうなるかわからず不安に思えることもあります。しかし、私たちは次のような問いを発するとよいでしょう。

「時の門に立つ者に向かって私はこう言った。『未知の世界へ安心して歩いて行けるように光をください。』すると彼は答えた。『暗闇に入り、あなたの手を神の手にゆだねなさい。その方が光に照らされた明るい道を歩むよりもあなたのためになり、歩き慣れた道を歩むよりも安全である。』」(M・ルーズ・ハスキンス「オックスフォード引用句辞典」p.239)

私たちは自分の手を神のみ手にゆだねると、人生の落とし穴を避け、天の家へ無事に帰ることができるのです。

### ホームティーチャーへの提案

1. 人生について教えるひとつの方法は、手について考えることである。
  - 子供の手は、私たちに神を賛美し、子供の信頼にふさわしく生活し、忍耐をもって教えたいという願いを植えつける。
  - 若人の手は、労働と奉仕を学び、生涯の伴侶の手を取る備えをする。
  - 母親の温かい手は、慰めといつくしみをいつまでも与え続ける。
  - 父親の手は、正直で勤勉な労働の威厳を示している。
2. モンソン副管長は、私たちを導き、祝福し、見守るもうひとつの手、すなわち主のみ手があると述べている。
3. 私たちにとって最も大きな平安と祝福は、自分の手を神のみ手の中にゆだね、その教えと力に信頼するときに得られる。



# 親友

ソーラ・ホワイトティング

高校のフットボール選手であるタイと私の7歳になる息子ウェスロンウェスロンの間に始まった友情は、ふたりにとっては次第になくはならないものになっていきました。

「わ あすごい、今の見た？」7歳になる息子ウェスロンがフットボール選手のすばらしいプレーを見て感激の声を上げています。「選手たちに会えないかなあ」とウェスロンはため息をつきました。

私たちはよくアリゾナ州イーガーにあるラウンドバレー高校でのフットボールの試合を見に行きます。夫と私が試合を見に行くようになったのはウェスロンのためだけではありません。私たちの娘のミツィーがこの学校に通っていたのです。フットボールシーズンが大詰めを迎えるにつれて、幼いウェスロンの感じやすい心の中で、選手たちは次第に偉大なヒーローになっていきました。

私も恥ずかしかったのですが、意を決してこの内気な息子<sup>あこが</sup>を憧れのヒーローに会わせてあげることにしました。「さあ、選手たちに声をかけに行くわよ。」試合が終わると、ウェスロンをグラウンドの人込みの中へと連れ出したのです。ウェスロンのヒーローのひとりに近寄って、おめでとうを言おうとしたのですが、騒がしいふたりの女の子が私たちの前に割り込んできました。その若者は自分と少女たちのことしか頭にない様子で、私たちの前を足早に通り過ぎて行きました。ほかの選手に私が「いい試合だったわ」と声をかけ、息子がどれほどの憧れを抱いているかを話そうとしても、その選手は立ち止まることなく「ありがとう」とつぶやいただけでした。

私たちは仕方なく最後の選手に近づいて行きました。私がすばらしいプレーだったと言うと、タイ・ウォークマンは立ち止まり、うれしそうにほほえんで答えました。「どうもありがとう。」

私はその言葉に勇気づけられて、ウェスロンがどんなに選手たちに憧れているかを話し始めました。私の話に耳を傾けている間中、タイの黒髪とハンサムな顔からはグラウンドでの活躍による汗がぼたぼたと滴っていました。タイは握手をしようとウェスロンに手を伸ばして言いました。「ありがとう、親友。何ていう名前なんだい？」

息子は小さな声で「ウェスロン」と答えると、恥ずかしそうに目を伏せました。

「ウェスロンはあなたのプレーが好きなのよ。」私が言うと、タイは息子にほほえみかけて言うのです。「ありがとう。本当に会えてうれしいよ、親友。」

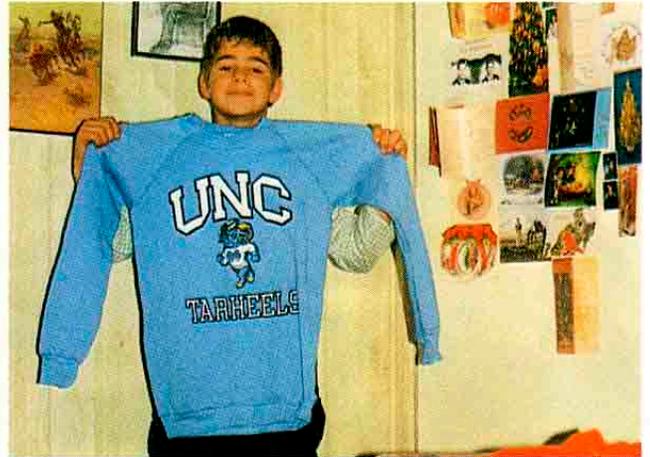
翌日ミツィーは学校へ行ってタイに話しました。「私の弟にとってあなたは特別な人みたいよ。」そのときからミツィーはタイとウェスロンウェスロンの間でメッセージを伝える役目を引き受けるようになりました。間もなくふたりは本当の親友になっていきました。試合の後にはいつも、ウェスロンの肩にタイが腕を回して、試合についておしゃべりをしているふたりの姿がありました。私たちはほかの町で行なわれるものであっても、とにかくすべての試合を見に行きました。

タイと親しくするうちに、タイが年齢に関係なくすべての人たちの間で人気があることがわかりました。タイはお酒もたばこも麻薬も一切口にせず、道徳的に高い標準を身につけた人でした。タイは体に有害なものには手を出さないようにウェスロンに言い聞かせ、よく自分の好きな言葉を口にしていました。「主に近くありません。」



COWBOYS  
54

NORTH  
80



ふたりが友達になって数週間がたったころ、ミツィーが驚くような知らせを持って学校から帰って来ました。とても信じられないといった顔をしています。「タイは多発性硬化症という病気なんですって。あんまりだわ。あと1年しか生きられないらしいのよ。」多発性硬化症がどのような病気なのかを話して聞かせると、ウェスロンはとてもつらそうでした。タイの病気が深刻なものだとわかると、だれも何も言うことができずに黙り込んでしまいました。

2、3カ月後、タイは何度か発作に見舞われ、入院しなければなりません。タイはやせてしまいましたが、グランドでは努めて元気にしていましたし、ミツィーの所属する歌と踊りのサークルのメンバーでもあるタイは、何度かの入退院の間を縫っていくつものむずかしい練習や本番にも参加していました。

ある晩遅く、タイのお父さんから電話がありました。「タイの具合がとても悪いのです。もし明日ウェスロンに病院に来てもらえたら、タイも元気づけられると思うのですが……。タイは目が見えなくなってしまう、腰から下がまひしています。」

電話の後、ウェスロンは自分の部屋に入って行きました。しばらくして出てきた彼は、目を涙でぬらして言いました。「タイのためにお祈りをしたの。」翌朝、私たちがウェスロンのお小遣いで買ったお見舞いを手に病院を訪れると、タイは元気な声でウェスロンにあいさつをしました。「やあ親友、元気かい？ ぼくにはすべてがぼんやりとしか見えないよ。ウェスロンが影のようだ。」

「お見舞いを持ってきたわよ、タイ。」心配が声に表われないように気をつけながら私はタイに言いました。

「どうもありがとう。」タイの黒い目は私たちの方に向けられていましたが、焦点が合っていません。病室にいる間私は陽気に話していましたが、タイとウェスロンの話す姿を見ていると、胸が痛んで仕方がありませんでした。

数日後、病院からタイの退院の許可が出たのに、私たちは驚いてしまいました。家に帰るとタイは除々に視力を回復し、足の感覚も取り戻していました。間もなくタイは学校に戻ったのです。

私たち家族はそれからの数カ月間タイと一緒に過ごすことが多くなりました。タイが遊びに来ていると私たちはよく笑い、その友情に気持ち明るくなるのでした。タイはウェスロンといろいろなことを話しますが、いつでも自分のスローガン、「主に近くありなさい」を強調していました。

クリスマスが終わると間もなく、タイは治療のためアリゾナ州のフェニックスにある病院に入院しました。そこにいる間にタイは昏睡状態に陥りました。タイの命がもう長くはないという医師の言葉を聞いて、私たちは遠くフェニックス市へとウェスロンを連れて行こうと決めました。そのときです。うれしい知らせが舞い込みました。タイが昏睡から覚めたのです。

そこを退院すると、タイの両親はカリフォルニアの専門医のところへタイを連れて行きました。数々の検査の結果、医師団はタイの病気は多発性硬化症ではないと言います。さらにおびたごしい検査をしてわかったこと

伝道先からさえも、タイは手紙を通してウェスロンとの話を続けました。その中でタイは伝道に出るための準備をするようウェスロンに勧めています。どの手紙にもウェスロンの伝道資金のために1、2枚のコインが同封されていました。

は、タイを苦しめているのは一種のウイルスで、ストレスがたまったり疲れたりしたときに神経組織を冒すものだというのです。この知らせを聞いた私たちは、ほっと胸をなで下ろして喜んだものでした。タイが病気であることに変わりはありません。しかし今ではどうやって体が弱るのを避けたいかを心得ていますし、何よりも明日やって来るかもしれない死の恐怖から解放されたのです。

学校を長期欠席したにもかかわらず、5月にタイはクラスメートと一緒に卒業することができました。夏の間に仕事を見つけると、アリゾナ中の高校から選ばれたオールスター選手によるフットボール大会に向けて練習をしていました。この地区からチームに選ばれたのはたったの4人で、タイはその中のひとりでした。ウェスロンはよく練習を見に行きましたし、私たちははるばるアリゾナ州プレスコットまで試合を見に出かけて行きました。病気のせいでグラウンドではタイが一番細い選手でしたが、彼の活躍はチームを勝利へと大きく導いたのです。

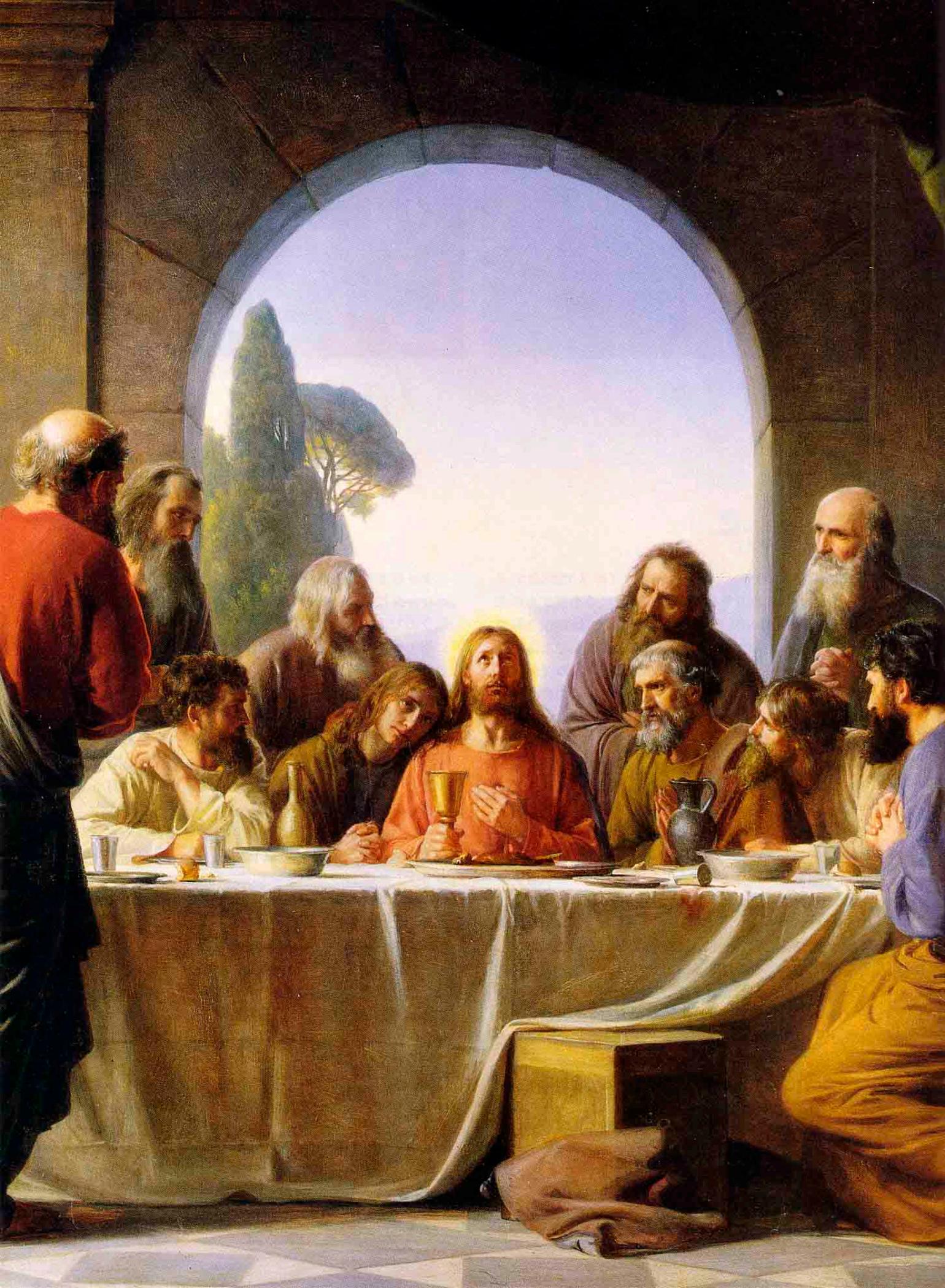
試合が終わるとタイが小走りにやって来ました。汗でぐしょぐしょの顔には満面の笑みを浮かべています。タイが親友の肩を抱いて、ふたりは試合について話していました。私はそれを写真に収めました。「ここにいるんだよ、ぼく取ってくるものがあるから。」ウェスロンにそう言い残して立ち去ったタイは、すぐに走って戻って来ました。手には大会に出場した選手に贈られた記念の帽子を持っています。タイはウェスロンに言いました。「これを受け取ってほしいんだ。試合を見に来てくれてありがとう、親友。」

タイは多くの人に感銘を与えました。そしてラウンドバレー高校での最初の『タイ・ウォークマン賞』を受賞したのです。今では毎年、苦難に立ち向かっている生徒にこの賞が与えられています。

1987年の12月になるとタイはノースカロライナ州シャーロット伝道部に召されました。集会の話の中で、タイはウェスロンの名を口にしました。「ここに小さな友達があります。私にとってとても大切な友達です。彼の名はウェスロン・ホワイティングといます。」私たち家族にとってそれが大変感動的な集会になったことは言うまでもありません。

タイは立派に伝道を果たしています。その後も小さな親友を忘れることなく、以前ウェスロンと話していたときと少しも変わらない気持ちで手紙を書き続けました。タイはいつでも自分が小さな少年に与えた喜びのことは考えずに、ウェスロンが自分に与えてくれた喜びを考えていたのです。こんな手紙がありました。この言葉はきっといつまでも私の心に残ることでしょう。「ウェスロン、君は私の人生の大きな支えになっているんだよ。君が思っている以上にね。」小さな親友にあてたどの手紙にもウェスロンの伝道資金のために1、2枚のコインが同封されていました。

タイの命が長くはないと聞かされたあの日から3年がたちます。若い世代に対する信頼を与えてくれたこのすばらしい若者に感謝します。また真の英雄として、輝かしいお手本を幼い息子に与えてくれたことを、私は感謝しています。□



# 過越の祭りの約束を成就した 最後の晩餐



ILLUSTRATED BY ROBERT T. BARRETT

テリー・W・トレサダー

**死**すべき肉体を持つ人として主が臨まれた最後の晩餐は、福音の歴史の中でも際立った位置を示しています。というのもこの晩餐を境に、きわめて重要な出来事が続けて起こり、生きている者も死んだ者も、さらには、まだこの世に生まれていない者たちまでもが、メシヤであるイエスにより頼んで不死不滅と昇栄にあずかれるようになったからです。この意義深い出来事をどの時点で行なうかは、偉大な教師イエス・キリストご自身が決定されました。

最後の晩餐は聖餐を新たに定めたものとして画期的な出来事でしたが、それだけではありません。イスラエルの荒野彷徨の時代から1千年以上もの間、毎年、過越の儀式の中で繰り返し唱え祈り求めてきた約束が、この晩餐を通じて成就したのです。イエスの時代にユダヤ人が欠かさず行なった過越の祭りの意味や価値を理解すれば、現在私たちが交わしている聖餐の誓約をそれだけ深く理解し、人類の長兄、主イエス・キリストの無限の愛と忍耐について以前にも増して感動を新たにすることができます。

エホバは旧約聖書の神として、自由になったばかりのイスラエルの民にエジプトからの解放について忘れないように、次のような具体的な戒めを与えられました。

「あなたがたは、種入れぬパンの祭を守らなければならない。ちょうど、この日、わたしがあなたがたの軍勢

をエジプトの国から導き出したからである。それゆえ、あなたがたは代々、永久の定めとして、その日を守らなければならない。……

もし、あなたがたの子供たちが『この儀式はどんな意味ですか』と問うならば、あなたがたは言いなさい、『これは主の過越の犠牲である。エジプトびとを撃たれたとき、エジプトにいたイスラエルの人々の家を過ぎ越して、われわれの家を救われたのである。』（出エジプト12：17、26—27）

主は過越の儀式を導入して、偶像崇拜に陥りがちな子供たちがよい状態で霊の王をいただく国民となれるようにされたのです。

過越は、イスラエルがエジプトでの束縛の状態から解放されたことを祝うものでした。主は予言者モーセによって一連の災いを下し、その力を示されました。最後の災いではすべてのエジプト人の家族の長子が惨死しましたが、主はこれに備えてイスラエルの全家族に完全で傷のない小羊を犠牲に捧げるように命じられました。

「また一束のヒソブを取って鉢の血に浸し、鉢の血を、かもいと入口の二つの柱につけなければならない。朝まであなたがたは、ひとりも家の戸の外に出るはならない。

主が行き巡ってエジプトびとを撃たれるとき、かもいと入口の二つの柱にある血を見て、主はその入口を過ぎ越し、滅ぼす者が、あなたがたの家にはいって、撃つ



**私たちも小羊の「血を、かもいと入口の二つの柱につけ」  
(出エジプト 12 : 22) るなら、つまり生活の中で悔い改  
めを実践するなら、イスラエルの民のように、私たちも  
小羊の血によって滅ぼす者の手から救われるのです。**

を許されないであろう。」(出エジプト12:22-23)

解放の晩、イスラエル人の家庭で食卓に上った食事は犠牲に捧げられた小羊と種入れぬパンでした。この火急のときに種を入れたパンがふくらむのを待っている余裕はなかったからです。(出エジプト12:39参照)

過越の儀式は、こうして3,000年の間、ほとんどその内容を変えることなく守られてきました。聖書時代の過越の儀式に登場する基本的な象徴的品目は今日も昔のまま残っており、儀式の進め方や様々な象徴の意味にしても昔と同じです。ただ、エジプト脱出を子供たちにわかりやすく教えるための話が「ハガダー」(過越の祭で用いられる典礼書)に付け加えられ、エルサレムの神殿が破壊された後に象徴的な食物がさらにふたつ、過越の正餐に加えられたにすぎません。最後の晩餐はこのような過越の伝統に照らして考察することができ、主ご自身がこの聖なる儀式を定められたこと、後にその目的を成就して今度はこれを「聖餐」として再び確立されたことを心に留めておくことができます。

### 清潔な家

過越の祭りの最初の日、主は弟子たちと共に過越を祝うための場所を捜し、準備させるために、ふたりの弟子を遣わされました。(マルコ14:12-15参照)

過越の食事を準備するために遣わされたふたりの弟子

は、2階の部屋に案内されました。おそらくこのふたりは、部屋が清潔であることを確認するために隅々まで検査したでしょう。今日でも、過越の前夜が近づくと、信仰あついユダヤ人の家庭ではどこでも家の中を掃き清めて準備をします。

救い主も、御父の家、神殿でこの伝統を守られました。過越の祭りの時に両替人や強盗を追い払って神殿を清め、公の伝道活動を開始されました。(ヨハネ2:15参照)後に、伝道活動を終えられた時も、同じことをされました。すなわち、過越の祭りで群がった群衆の歓声に迎えられてエルサレムへの勝利の入城を果たされた後、主は再び神殿で行なわれていたこの世的な活動を一扫されました。(マタイ21:12参照)どちらの場合にも、霊的に飢え渴いた群衆を清められた宮居に招き入れ、病人を癒し、愛の福音を説き、ご自身の死と復活、再臨について予言されました。

### 犠牲の小羊

マルコは、「除酵祭の第一日、……過越の小羊をほふ」<sup>じよこうさい</sup>と記しています。(マルコ14:12)過越の祭りの第1日の午後、各家庭の長老格の人が、傷のない小羊を捧げ物として神殿に持って行く習わしがありました。この小羊は祭司の手でほふられると、過越の食事として持ち主に返されることになっていました。過越を祝う正餐の食物とするために、祭司は神殿でこの動物を犠牲として捧げなければならなかったのです。

この点を知っていると、過越の祭りの週にそれほどおびだしたい数の群衆がエルサレムに集まって来た歴史家たちが記しているのはなぜか、理解する助けになります。(同時代のユダヤ人の歴史家フラヴィウス・ヨセフスは、1回の過越の祭りにほぼ25万6千人が集ったと伝えている)伝統と宗教的な信念を守るために、こうしたおびだしたい数の群衆がエルサレムに集まり、人々は神殿で小羊を犠牲に捧げました。律法によれば、これらの小羊は2時間(ほぼ午後3時から5時までの間。2日間でこの儀式を行なう習慣になっていたことを考慮すれば、これは不可能な時間ではなかった)でほふらなければなりませんでした。

救い主が、もし、この二日間の最初の日に過越の食事



をされたとすると(マルコの記述によるとその可能性が大きい)、救い主が十字架上で死なれたその翌日には、神殿で過越の小羊がほふられていたことになります。

救い主と犠牲の小羊の間の類似性は、古代と近代の聖典の至る所で立証されています。イザヤは「彼は……ほふり場にひかれて行く小羊のよう」(イザヤ53:7)であると予言しました。

ペテロはこう宣言しました。「あなたがたのよく知っているとおりに、あなたがたが……あがない出されたのは、……朽ちる物によったのではなく、……きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである。キリストは、天地が造られる前から、あらかじめ知られ

ていた……。」(Iペテロ1:18-20)

モロナイは強い口調で次のように訴えています。「それであるから、信仰のない人々よ。主に立ち帰れ。あの大きな終りの日に、あなたたちがすでに子羊(イエス・キリスト)の血によって清められ、罪なく清く美しく潔白な者と認められるため、イエスの御名によってひとえに一生けんめい御父に祈れ。」(モルモン9:6)

罪も傷もないメシヤだけが私たちを罪から救い、正義の厳しい要求にこたえることができたのです。私たちも小羊の「血を、かもいと入口の二つの柱につけ」(出エジプト12:22)るなら、つまり生活の中で悔い改めを実践するなら、イスラエルの民のように、私たちも小羊の血



ILLUSTRATED BY WILLIAM HENRY MARGETSON

によって滅ぼす者の手から救われるのです。

### ぶどうの実

ぶどうの実(ぶどう酒, または, ぶどう液)は, 古代の過越の儀式の中では, 異なるふたつの目的を果たすために用いられていました。今日でも同じ目的で使用されています。

第1の杯は自由を勝ち得た喜びを象徴しています。過越の祭りで使用される典礼書「ハガダー」には, ぶどう酒またはぶどう液を用いる際に祝福を宣言すると記されています。

「さいわいなるかなわれらの主なる神, 天地の王。汝は

ぶどうの実を作りたもうた。さいわいなるかなわれらの主なる神, 天地の王。汝は, ……戒めをもってわれらを清めたもう。主なるわれらの神よ, 汝は愛をもって……われらに種入れぬパンの祭り, 解放の時を定めたまい, ……汝の立てたる聖なる時節をわれらの受け継ぎとして歓喜と至福のうちにたもうた。」

救い主は, この最初の杯を従来の方法では祝福されませんでした。その代わり, 「杯を取り, 感謝して言われた, 『これを取って, 互に分けて飲め。あなたがたに言っておくが, 今からのち神の国が来るまでは, わたしはぶどうの実から造ったものを, いっさい飲まない。』」(ルカ 22: 17-18)

地上での召しを完全に果たし、罪の縄目に縛られた兄弟姉妹のためにすべてを克服し、栄光に満ちた復活体をもって地上に戻って来るまで、救い主に喜びはないように見受けられます。

### 種入れぬパン

過越の準備のひとつとして、この2階の部屋からパン種(イースト)はすべて取り除かれたでしょう。パン種を含むいかなるものも家の中に置くことはできなかったからです。

「マツォー」と呼ばれる種入れぬパンを食べることは、旧約の時代から今日に至るまでいつも過越の祭りの中で際立った特徴のひとつでした。実際、聖典の随所でこの祭りは「種入れぬパンの祭<sup>まつり</sup>」または「除酵祭」と呼ばれています。(出エジプト12:17; マタイ26:17参照)現代でも過越の祝宴の前夜には、昔のままに、パンくずやイーストを発酵させて作った飲料を家族が家中をくまなく捜して、点検します。こうしてイーストの入った飲食物は家の外へ持ち出され、焼かれてしまいます。1週間、食べられるのはマツォーだけになります。

過越の祭りの中でも主はこの部分を重視されました。特に次のような戒めを与えられたからです。

「七日の間、……あなたがたは種を入れたものは何も食べてはならない。すべてあなたがたのすまいにおいて種入れぬパンを食べなければならない。」(出エジプト12:19-20)

パウロは過越の中でパン種がどのような意味を持っているのか、次のように詳述しています。「あなたがたが誇っているのは、よろしくない。あなたがたは、少しのパン種が粉のかたまり全体をふくらませることを、知らないのか。

新しい粉のかたまりになるために、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたは、事実パン種のない者なのだから。わたしたちの過越の小羊であるキリストは、すでにほふられたのだ。

ゆえに、わたしたちは、古いパン種や、また悪意と邪悪とのパン種を用いずに、パン種はいっていない純粋で真実なパンをもって、祭をしようではないか。」(Iコリント5:6-8)

主が聖餐という儀式を紹介されたとき裂かれたパンには、パン種が入っていなかったのでしょうか。ギリシャ語の原本では、種入れぬパンの祭りの時は「アズーモス」



ILLUSTRATED BY ROBERT T. BARRETT

救い主と犠牲の小羊の間の類似性は、古代と近代の聖典の至る所で立証されています。イザヤは「彼は……ほふり場にひかれて行く小羊のよう」であると预言しました。

という言葉が使用され、最後の晩餐の時のパンは「アルトス」という言葉で描写されています。どちらのパンを主が使われたとしても、伝統的なヘブライの戒めに従いながらも象徴的な刷新をねらった主の教え方に矛盾はなかったでしょう。主がマツォーを使われたとすれば、過越の儀式の伝統に従いながらも、このマツォーに新しい意味を吹き込まれたでしょう。逆に、パン種の入った新しいパンを使用されたとすれば、新たな救いのパン種に関するたとえを劇的に明示されたとも考えられます。主は次のようなたとえを世の人に教えられました。

「天国は、パン種のようなものである。女がそれを取って三斗の粉の中に混ぜると、全体がふくらんでくる。」(マタイ13:33)

パンはキリストとその贖<sup>あがな</sup>いの犠牲の象徴でした。同じように、キリストの弟子たちも救いのメッセージを世に広めることになりました。つまり、新しい福音の種によって力を得た弟子たちは、パン種のように人に影響を与える者として働くことになったのです。

今日でも手を清めた後で聖餐を祝福するように、いにしえの時代に過越の祝宴をつかさどった人も、神に感謝を捧げ、マツォーを祝福し、人々が食べられるようにそれを回したのです。マツォーは自由の象徴であり、イスラエルの民がパンをふくらませる余裕もないほど急いでエジプトを脱出した記念だったのです。

主は象徴としてのパンに次のような新しい意味を加えられました。「またパンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、『これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。』」(ルカ22:19)

パンは現在でも自由、すなわち死と罪からの自由を象徴していますが、同時に、自由を勝ち得るための手段をも象徴しています。私たちは聖餐のパンを取るときに、象徴的な意味で、救い主を私たち自身の生活の一部としているのです。イエスは私たちの命のパンであり、贖いにあずかるための唯一の手段だからです。主もこの世で恵みと導きを施されていた間、ご自分をたびたび「命のパン」と称しておられました。(ヨハネ6:47-51参照)

#### 再び、ぶどうの実

過越の食事で全員がマツォーの一部を食べ終わると、祝宴の責任者がエジプトからの脱出について話して聞かせ、この間4回話を止めて、ぶどうの実を祝福し、神の約束が成就するように祈ります。

「おお主よ、われら祈りまつる。われらを救いたまえ。おお主よ、われら祈りまつる。われらを榮えさせたまえ。……憐れみ深き神よ、われらを来るべきこの世の命、メシヤにまみえるに足る者とならせたまえ。『主は、その王に大いなる勝利を与え、油を注がれた者に、タビデとその子孫とに、とこしえに、いつくしみを施される。』高き所にて平和を造り出される主よ、われらすべてのため、全イスラエルのために、平和を造り出したまえ。まことに然り、アーメン。」(「ハガダー」)

主はここでもぶどう酒またはぶどう液に新しい意味を付加されて、それまでの慣習を変えられました。「この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。」(ルカ22:20)

この約束は、神ご自身の愛子の血が流されたことによって、その夜、成就しました。もはやぶどう液は、将来成就すべき約束を象徴するのではなく、忠実に履行された約束を象徴するようになったのです。

#### にが な 苦 菜

「そしてその夜、その肉を火に焼いて食べ、種入れぬパンと苦菜を添えて食べなければならない。」(出エジプト12:8)

束縛の苦痛を象徴する西洋ワサビや葉タマネギなどの苦菜を、過越の儀式のこの時点で食べるのが習慣となっています。大抵は、「マーロー」と呼ばれる細かく刻んだ苦菜をマツォーに載せて、刻んだりんご、木の実、シナモン、はちみつなどをぶどう酒に混ぜた「ハローシス」と一緒に食べます。このハローシスは、イスラエル人がれんがを作るときに使ったしっくい<sup>の</sup>の代わりを象徴しています。

聖典の中で具体的にこの習慣について触れた箇所はありませんが、イエスも古くから行なわれていたこの方法に従われたでしょう。注目すべきことですが、ぶどう液を祝福した直後、イエスと弟子たちがこの不快な食物を取っていた時に、イエスはいたく「その心が騒」いだのです。(ヨハネ13:21参照)食事の最中に、救い主は次のように証しました。「わたしを裏切る者が、わたしと一緒に食卓に手を置いている。」(ルカ22:21)

主は、イスカリオテのユダの足を、そこにいたほかの弟子たちの足と同じように愛情を込めて洗われました。そして彼に、永遠の生命の象徴、この上ない愛の賜を差し出されました。この使徒が自分に裁きを招くために食事をしていただけのご存じだった主は、愛する者がご自分を裏切って去って行くことを思うと、心の底から悲しみを感ぜないわけにはいかなかったでしょう。

#### 塩 水

苦菜を補う意味で、深皿に入れた塩水が食卓に上り、この中にレタスやセロリなどの青物(「カルパス」と呼ばれる)を浸して食べます。この塩水は、奴隷の状態にあったときに流した涙を象徴しています。

はっきりとはわかりませんが、イエスと弟子たちがこの習慣に従ったことを示唆する箇所を見つけることができます。イエスとその場に反逆者がいることを宣言すると、弟子たちはだれが反逆者であるかをめぐって様々な憶測を始めました。「弟子たちは非常に心配して、つぎつぎに『主よ、まさか、わたしではないでしょう』』と言い出した。イエスは答えて言われた、『わたしと一緒に同じ鉢に手を入れている者が、わたしを裏切ろうとしている。』」(マタイ26:22-23)

霊的な束縛に伴う苦痛と涙、そして自由がもたらす喜びのふたつを、これほどわかりやすく説明する方法はほかになかったでしょう。

主に従う人々は、喜びと贖罪しよくざいにあずかることができます。この喜びと贖罪は、ぶどうの実と命のパンを象徴する主の贖いの犠牲によってのみもたらされるものなのです。これに反して、主を受け入れない人々は、苦菜と塩水に象徴されるみじめな境遇と霊的な束縛を経験することになります。

### 食事の際の説教

エジプトからの脱出を象徴する食事に続いて、イエスと弟子たちは、犠牲として捧げられた小羊が供される祝宴に臨んだはずですが、エルサレムの神殿が破壊された後、ユダヤ人の家庭では焼いた肉を食べなくなりました。神殿の中で処理されるべき肉が食べられなくなったため、ふさわしくない肉を食べて神を冒瀆ぼうとくすることになってはいけないと考えたからです。そこで、祝宴には過越の小羊の象徴として、焼いた羊のすねの骨が添えられることになりました。

祝宴のこの時点で、儀式の責任者が自由について、一般に講話を述べます。(現代のラビたちは、ラビの教訓集や、戦時中ヨーロッパで行なわれたユダヤ人の大量虐殺、ロシア人による迫害、国家としてのイスラエルなどの歴史的な出来事についてよく話します)ヨハネは祝宴のすぐ後に始まった、人類の歴史上最も偉大な過越の説教について記録しています。(ヨハネ13-17参照)

主は説教に先立って、弟子たちの足を洗われました。このような行為は、普通、一家の主人が来客に示す敬意のしるしとなっていました。救い主はこのような方法で、人に仕え人を愛する主としての高い徳をやさしく示されたのでした。(ヨハネ13:12-15参照)

この愛に満ちた行ないの後で、主は残された時間の限り使徒たちに、愛を示され、ご自分の模範に従うように諭されました。

「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。……

わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互たがいに愛し合いなさい。」(ヨハネ15:9, 12)

救い主は愛の教えを強調され、ご自分がどのような状況で死なれるかを予言し、将来必ず戻って来るといふ希望をもって使徒たちを慰め、聖霊の働きについて説明し、「世にいる自分の者たち」(ヨハネ13:1)のためにとり

なしの祈りを捧げられました。

聖餐の祈りの間に救い主について考えるとき、私たちは自分の思いをこの同じメッセージで満たすべきです。

### 自由の賛歌

「彼らは、さんびを歌った後、オリブ山へ出かけて行った。」(マルコ14:26)

祝宴は、賛美と自由の歌で終わるのが習わしになっています。

人類の救い主はゲツセマネへ向かう途中でどのような賛歌を歌われたのでしょうか。聖典はこの点については何も触れていませんが、大きな祝宴を催すとき、イスラエルでは「ハレル」を歌います。これは詩篇の第113-118篇を指す名称です。「大ハレル」と呼ばれる第136篇だった可能性もあります。過越ろうしよの祭りのときや、神殿で、家族はこれらの詩篇を朗誦しました。これらの詩篇はすべて主の力、主の救いをほめたたえ、感謝する内容です。詩篇第118篇は、救い主が人類を霊と肉体の死から贖うことを示すメシヤに関する賛歌です。詩篇第116篇も死からの解放を歌っています。

幾世紀にもわたって、何百となく過越の賛歌が作曲され、歌われてきました。あるものは聖書から取り、あるものはラビたちが創作しました。現代の詩篇の作者たちによって作られたものもあります。過越の季節には、大勢のユダヤ人の家庭でこうした賛歌が歌い継がれていくでしょう。次の賛歌もまた、そのひとつなのです。

それゆえに、われら声をあげて喜ばん、

救いをもたらす奇しきみ業を。

束縛を自由に、

苦悩を喜びに、

悲しみを歓声に、

闇やみを光に変えた奇しきみ業を。

神のみ前にとこしえに歌わん、新しき歌を。□

\*テリー・W・トレサダー姉妹：ユタ州ソルトレークシティ  
ー・ハイランドステーク部クリスタルハイツ第2ワード部所  
属。同州プロボのブリガム・ヤング大学で、中東研究で学位  
を取得。

# 罪—赦されても忘れられないもの

ヘザー・オブライエン

**長**年の間お休み会員だった父が、ある日突然、教会に戻ろうと言い出しました。私は反対でした。幼いころから、モルモン教会のことはほんやりとしか知りませんでしたが、当時私がしていたすべての事柄を禁じる規律があることは、基本的に理解していたのです。私にとって宗教は、自己否定を強要する狂信的な信者の集団であり、私や友人たちには理解できない、まったくさげすむべきものでした。それに、私が教会に行っていることを友人たちに知られたら、何と言われるかも心配でした。

結局私は、ためしに教会に行ってみることに同意しました。そのうえで、私がこれ以上行きたくないとしたときは強制しないと、父は私に約束してくれました。こうして日曜日がやってきました。聖餐会と日曜学校の間、私はまるで耳が聞こえない人のようにただ座っていました。若い女性クラスの時間になりました。私は教室の隅に座って腕を組み、じっと辺りをにらみつづけていました。(後で知ったところによると、アドバイザーは私の思わくどおり、私が恐ろしかったそうです)その日曜日が終わると、私は二度と教会には行かないと宣言しました。翌週の日曜日から教会へ行かなくて済むようにと、風邪から扁桃腺へんとうせんに至るまであらゆる仮病を使ったのです。

このときは教会に行くことを拒否しようとしたものの、実は私たちが教会に戻ったあの最初の日曜日に、私は何かを感じていました。若い女性のクラスに新しく入ってきたこの見慣れない少女を本当に気遣っていたようなアドバイザーからも、何かを感じました。それに、私が霊的な幸福を得られるように関心を示してくれるひとりの末日聖徒のクラスメートにも、やはり何かを感じていました。それ以来、私が何か間違ったことをする度に、そのクラスメートは、私たちには見えないけれども神様が

私の一挙手一投足を見守っておられることを思い出させてくれました。とにかく彼女は、私が納得し、引き続き教会へ集えるように助けてくれました。

次に私は、監督に会いました。監督は大きな牧場の経営者で、見上げるような背の高さの割には物柔らかな態度に思えました。最初の面接で監督は私に祈るように言いました。私は断りました。祈りの方法は知っていましたが、神様は罪人の祈りは聞いてくださらないだろうと思っていたので、祈れなかったのです。監督は私を理解してくれたようでした。もっともこれまで罪を犯したことが一度もないような人に、どうして私の気持ちが理解できるのかわかりませんでした。しかし、監督は私をとがめませんでした。彼はワード部にいるすべての教会員と同じように、大切な存在として私に接してくれました。私は自分が受け入れられているように感じたので、教会に出席し続けました。

これに続く2カ月の間、私がかつて感じたことのない事柄が次々と起きました。自分が聞き、感じているすべてのことが真実であると私にささやきかけているのは、主のみたまであることがわかるようになりました。このとき私に証があったとは思いません。ただ、私のクラスメートと彼女の不思議な考え方が自分でも気に入っていることだけはわかっていました。若い女性のアドバイザーも好きでした。彼女が私を愛してくれたからです。監督も好きでした。監督は私を非難しなかったからです。そしてこうした人々と一緒にいるときに感じる雰囲気も好きでした。いつもこのような気持ちで生活したいと願っていました。

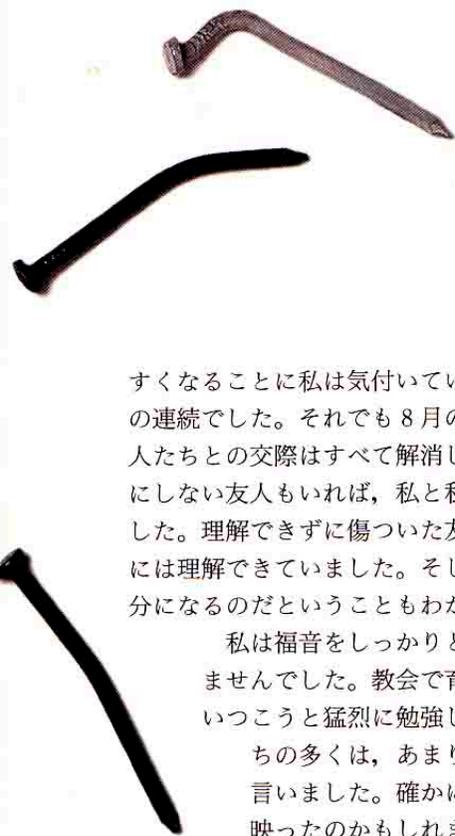
私はこの年の学年が終わったときは、ほっとしました。夏期休暇は、交際が減ったことをいぶかしがる昔の友人たちからの、格好の逃避の機会になったからです。彼女たちとの交際が少なくなれば、それだけ悔い改めがしや

罪を犯すのは板にくぎを打ちつけるようなものであり、悔い改めはそのくぎを引き抜くようなものであって、跡は残ると言う人々がいます。しかし……





……そのような考えは間違っています。悔い改めたとき私たちは新しい板を手にするので、跡は残っていないのです。



すくなることに私は気付いていました。毎日が悪戦苦闘の連続でした。それでも8月の終わりまでには、古い友人たちとの交際はすべて解消していました。まったく気にしない友人もいれば、私と私の宗教を憎む友人もいました。理解できずに傷ついた友人もいました。でも、私には理解できていました。そして、これからは新しい自分になるのだということもわかっていました。

私は福音をしっかりと捕らえ、握り締めて放しませんでした。教会で育った友人たちの知識に追いつこうと猛烈に勉強したのです。教会の友人たちの多くは、あまりにも独善的であると私に言いました。確かに彼女たちにはそのように映ったのかもしれませんが、私にしてみれば、自分が犯したもろもろの罪から逃れられないと思っていたので、できるだけ完全になろうとしていたのです。教会での質問にすべて答え、セミナーでの様々な賞を獲得することで、自分が過去に犯した過ちを何らかの形で償えるものと思い込んでいたのです。当時、過去の罪から逃れるにはそれしか方法はないといわずに考えていたことを覚えています。私は事実を受け入れ、それを償うために完全になろうとしていたのです。

(少なくとも私にとって)一番むずかしい悔い改めの段階のひとつは、自分を赦す<sup>ゆる</sup>ということでした。4年間という長い年月にわたってこの問題と取り組みました。周囲の人々には、私は霊的で聖典にもよく通じていると思われていたようです。よくここまで成長したとか、どれだけ私が立派にやっているかを話してくれる人々もいましたが、私だけが自分の心の汚れを知っていました。私は過去の罪を捨て去ってしまし、神様が新しい生活を喜んでくださっているという確信もありましたが、同時に、神様はなお私の過去の罪を覚え、私が再び墮落するのを待ち構えておられると思っていたのです。

ついに私は疲れ果てて混乱し、神権の祝福を求めました。このとき受けた平安はとても言葉では表現できません。聖霊による確信が与えられ、天父のみ前に完全に受け入れられたことを知る日が来るだろうという、個人的な祝福を受けたのです。

どのようにそれが実現するのでしょうか。頭では理解できませんでしたが、とにかく心ではそれを受け入れていました。そして私は信じました。

当時ユタ州のプロボにあるブリガム・ヤング大学の学

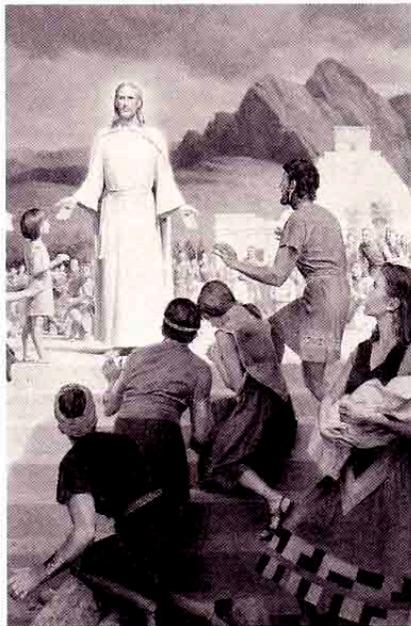
長だったジェフリー・R・ホランド長老の本を読んでいた時でした。私は初めて納得のいく説明を見つけたのです。「たとえ長く険しい道であっても (However Long and Hard the Way)」という著書の中で、ホランド学長は人生を1枚の板にたとえていました。罪を犯す度に私たちは1本のくぎをこの板に打ち込んでいるということです。不幸なことに、悔い改めることによってこのくぎは引き抜くことができるがくぎ跡だけは点々と残ってしまう、と大勢の人々は考えています。ところがホランド長老は、くぎ跡はひとつも残らないと記しています。なぜなら悔い改めるとまったく新しい板を手にするからです。キリストの手足にあるものだけが唯一残されたくぎ跡であることを知ると、このたとえは一層美しいものに私には思えました。主の犠牲は完全なものでした。

私たちが悔い改めた罪は忘れてくださると主が約束しておられることを知るのには、きわめて重要なことです。(教義と聖約58:42参照)罪から決して逃れられないと考えているうちは、生活を変えることは不可能です。主は確かに私たちをもう一度清める力を持っておられる、ということはどうしても知る必要があるのです。

それでもなお、なぜ過去の罪を忘れさせてもらうことができないのかと私は不思議でした。どのような教訓をそれらの経験から得るべきなのでしょう。現在では、こうした罪の記憶は主の慈悲と赦しの力を思い起こさせる働きをすることを、私は理解しています。確かに過去の罪の記憶は快いものではありません。しかし、私にとって福音は特別に大きな意味を持っています。福音がなければ自分がどうなっていたかを知っているからです。私は過去の罪を自分の心に吸い付いたヒルのように考えることをすでにやめました。むしろ、それらが神と人への愛を深めるために役立つことを知りました。しかし、その愛を深めるために罪を唱道するつもりはありません。たとえ悔い改めてどのようなものを得た後であっても、やはり罪悪は決して幸福を生じたことはなく、また、これからも絶対に生じることはあり得ないのです。罪の記憶が消えないことにはひとつの目的があります。しかもそれは神の目的であり、悔い改めの果てに新しい板を手にすることができるということを、ほかの人々も理解できるように助けることなのです。その板は、あのカルバリの丘に立てられた十字架と同じ材料の、くぎ跡もささくれもない真新しい板なのです。□

# 「一人一人」、個人の証を培う

中央扶助協会会長会



ILLUSTRATED BY JOHN SCOTT

**主**がニーファイ人にみ姿を現わされたとき、群衆の一人一人に、「わが<sup>あはら</sup>肋にその手をさし入れ、わが手足にある釘<sup>くぎ</sup>あとに触れて、われがイスラエルの神にして全世界の神なること、またわれが世の人の罪を負うて一度殺されたるを知るために起ちてわれに近づけ」と言われました。そこで群衆は「一人一人みなイエスに近よってこれをなし、各々みな目で見、手で触れて、……<sup>たしか</sup>確に知り」ました。(IIIニーファイ11：14-15)

## 個人の証を培うために

姉妹の皆さんが各自立ち上がって一人一人主<sup>きりすと</sup>に近づき、救い主に関する個人の証を培う祝福の喜びを味わうことは、私たちの最大の願いです。それぞれの姉妹が正しい生活を送り、「一人一人」救い主を知るようになってこそ、扶助協会は発展するのです。

何かを培うということは、創造し、伸ばし、作り上げるということです。証を培うために必要な基本的な事柄は、常に言われているように、聖典の勉強、祈り、集会に出席することです。

質問——個人の証を培うことは、あなたにとってどのような祝福ですか。

## みずから実行する

個人の証を培うためには、みずから

実行することが必要です。みずから努力し献身せずに、証を培うことはできません。モアブの地に住んでいたルツは、自らの証の深さを行動によって表わした良い模範です。(ルツ1：16-17を読む)

質問——個人の証の力によってルツはどのように自分の生活を変えたでしょうか。あなたの場合はどうでしょうか。

## 自分の目標を立てる

扶助協会が掲げる高い目標に添い、私たち一人一人は自分の目標を高く設定しなくてはなりません。目標を立てるときには、自分の必要、願い、性格を考慮に入れます。また、自分の長所に基づき、短所を克服できるようなものとします。最も大切なことは、私たちが自信を持ち、一層正しい生活をしたいという願いを抱き、個人の証を強めるような成果を上げるのに役立つ目標を立てることです。

質問——目標を設定することは、あなたの証を培うのにどのように役立ちますか。

## 一人一人

救い主はニーファイ人を訪れられたとき、ご自分のことを次のように言われました。「見よ、われはイエス・キリストなり。予言者らがこの世に来ると証をしたるその者なり。われは世の光にしてまた世の<sup>いのち</sup>生命なり。」(IIIニーファイ11：10-11)このような驚嘆すべき言葉でご自分のことを述べられた後、主はすぐ「一人一人……各々みな……この御方が予言者たちによってこの世に来ると<sup>しる</sup>誌されたお方であることを……証をすることができ

るよう

にみもとに近づくよう、群衆を促されました。(IIIニーファイ11：15)

私たちも古代のニーファイ人と同じように、主が生きておられることを喜んで証いたします。私たちはさらに正しい生活を送り、一層多くの成果を上げて成長できるように、霊性を深めなくてはなりません。証はそのための力となります。中央扶助協会会長会として、私たちは皆さんが私たちと共に、「一人一人」個人の証を培っていただきたいと思います。

質問——霊性を深めることは個人の証を培うことにどのように役立ちますか。□

D7L336  
107:31

# 「イエスさまもまえに わたしのよ うな こどもでした」

R・バル・ジョンソン

初等協会の分かち合いの時間です。ひとりの少女が友達の隣に腰かけました。  
この少女はその場にいるほかの子供たちと何ら変わるところはありません。  
違うのは、鼻と、片方の耳と、自分のまぶたと、手の指がないことです。  
体の45パーセントの皮膚が移植され、左足には固定金具がはめられ、  
4本のピンが筋肉を貫いて骨に  
つながっています。

8歳になるセージ・ボルクマンは、普通の人がめったに経験することのない苦難に遭い、それを克服しました。  
子供たちは歌い始めました。セージもみんなに交じって、小さいながらはっきりした声で歌い出します。  
「イエスさまも まえに わたしのよ  
うな むじゃきでおとなしい よいこどもでした……。」

## 火...事

**19**86年10月24日、セージの父親マイケル・ボルクマンは、ふたりの子供をキャンプに連れて行くことにしました。わずか6日前に、マイケルと妻のデニースと、息子のアベリーは、バプテスマを受けて教会に入ったばかりでした。5歳の娘セージは自分だけがバプテスマを受けられないのがっかりしていましたが、大きくなれば受けられると知って納得しました。

その朝、マイケルと8歳のアベリーは、寝ているセージをキャンピングトレーラーに残して氷の張ったブルー

ウォーター湖に釣りに出かけました。マイケルは妻が来られなかったのを残念に思いましたが、幼稚園の保母をしていた妻は、代理の人が見つからなかったのです。

東の空が白んでくると、マイケルはセージの様子を見にトレーラーまで引き返しました。何も変わりありませんでした。マイケルが湖のアベリーのところへ戻ってから5分後、犬たちがほえ出しました。アベリーが振り返ると、140メートル離れたキャンプ場から煙が立ち昇っています。キャンプ場へ駆けつけるマイケルの胸は激し

く脈打っていました。トレーラーは炎に包まれていました。中にはまだ、寝袋にくるまったセージがいるのです。

マイケルがトレーラーのドアを引き開けると、煙と炎に押し返されました。彼は深呼吸をひとつして中へ駆け上がり、あちこちの焼けている寝袋をかき集め、セージのぐったりした体を捜し当てました。

マイケルは自分の手や顔のやけども構わず、セージをトレーラーから救い出し、すぐさま蘇生術を始めました。およそ3分が過ぎました。まだ生気は見えません。彼は、実際に肋骨が1本折れたほど力を込めて、セージの心臓を押し続けました。やがて小さな声もれ、ついに胸の動くのが見えました。

それまで無我夢中で祈っていたアベリーは、トレーラーのわきに引火性のプロパンガスのボンベがあることを急に思い出しました。「パパ、ここから離れた方がいいよ！」アベリーが叫びました。

マイケルがうなずき、やっとのことでセージをトレーラーから遠くに移したその数秒後、プロパンガスが爆発しました。

それからは、あわただしい出来事の連続です。マイケルとふたりの子供たちは別の釣り人が運転する車に乗り、20分間生死をかけて、舗装のないでこぼこ道を森林事務所まで飛ばしました。そこで無線を使って救援を頼み、ニューメキシコ州グランツへ救急車で移動、ここからセージは飛行機でニューメキシコ大学熱傷部へ運び込まれました。マイケル自身はアベリーと一緒に、110キロ離れたニューメキシコ州アルバカーキ市へ運ばれました。救急車の中では目も手も包帯を巻かれていたため、マイケルは見ることも触れることもできませんでした。

### 平安な場所

セージが熱傷部に運び込まれたとき、医療スタッフは、一晩持つ見込みは薄いと考えました。「助かる確率は10パーセントという判断でした」と、マイケルは述懐しています。顔や腕、胸、足のやけどは非常に重く、第3度から第4度に及んでいました。鼻と片耳が焼けてくずれ、指は真っ黒に焦げて切断しなければなりません。まぶたの35パーセントが失われていて、片肺は

つぶれ、もう一方の肺もほとんど機能していませんでした。両肺から1リットルものすずが摘出されました。

セージは昏睡状態でした。

それでも、彼女はどうか命を取り留め、2日後には、最初の植皮手術を受けるだけの体力があると診断されました。結局この植皮手術は8回に及びました。セージはさらに肺炎を併発しました。

「この最初の10日間は、泣くことと祈ることしかできませんでした」と、マイケルは言っています。

デニズは、幼稚園で子供を教えている時に、事故の知らせを受けました。「保安官に呼ばれたのです。あの時、こぶしをかんで、叫びたいのを必死でこらえました。やっとセージに会えたとき、人に教えられなかったら、それがセージだとはわからなかったと思います。」

マイケルもデニズも、セージが一命を取り留めたのは医療スタッフの技術と新しく入った教会の人々の信仰と祈りのおかげであると考えています。

マイケルはこう言っています。「教会がどのようなものか、じきにわかりました。当時まだ断食のことも知らないでいた私たちのために、ワード部では特別に何回か断食をしてくれました。大勢の方が援助してくれ、セージは何回も神権の祝福をしてもらいました。」

初めのころに祝福したのはロバート・デバック兄弟でした。ロバートと妻のルースはボルクマン家に教会を紹介した人たちです。「ロバートがセージを祝福したとき、平安な場所に行けるように、天父のみ腕に抱かれるようにと述べたのです。私たちは長いこと、その祝福を心のよりどころにしていました。このときセージがいたのはそのような平安な場所だったと信じています」と、ルースは語っています。

数カ月たったころ、セージはこの信仰の力を裏づけるようなことを言いました。ある日デニズが、初めの1カ月半くらいのことを何か覚えているか、セージに尋ねたのです。するとセージは、イエス様と一緒にいたのを覚えていると言いました。

母親は信じ難い気持ちもあって、「イエス様は何ておっしゃったの」と聞きました。

セージが答えました。「ただ私をだっこして、痛くてかわいそうって。私のことを愛していますよって。」

「セージはなんて言ったの。」

「私もイエス様が好きよって言ったの。ここにいたいって言ったら、イエス様は、まだあなたにはすることがあるんですよって。そして、行っちゃったの。」

家族の中で現実主義者で通っているデニーズが、笑って言いました。「それで、天使には翼があった？」

セージはこう答えました。「天使には翼がないって、ママだって知ってるじゃない！」

癒.....し

セージはやけどを負った2週間後に、テキサス州ガルベトン市の病院に移り、やけどの子供を対象とした、さらに専門的な治療を受けられるようになりました。彼女は11月6日、飛行機で1,500キロ離れたガルベトン市へ向かいました。まだ昏睡状態のままでした。

その病院の医師団の中に、ふたりの末日聖徒がいました。ジョナサン・ブラブとロブ・ダランズです。彼らはそれまでやけどを負った患者を何人も診てきましたが、今回は特別でした。「それまではいつでも、自分の診ているのが患者のどの部分かは見分けがついたものなのに」と、ロブは後日ボルクマン家にコピーを送った日記に記しています。

「セージが着いたとき、医師たちは将来が楽観できなかった。『もし一晩持ちこたえたとしても、そしてそれさえ実に危ういのだが』と医師たちは強調して、『脳の損傷、失明、慢性の肺疾患、歩行障害、それにおそらくはかなりの聴力障害が予想される。これらの症状が出ないとすれば、それは奇跡だ』と述べた。」

ジョナサンは、日記にその後の出来事をつづっています。「ロブと私はセージの祝福を頼まれた。手術着のような服装で少女の部屋に入った。ベッドに近寄っても、身動きせず反応もなかった。ベッドのわきで人工呼吸装置が動き、鼻や口からは肺や胃、栄養補給のためのチューブが何本も通っていた。損傷がひどかった。ただ、小さ

大やけどから回復したセージは、イエス様と一緒にいたことを覚えていると話しました。

「イエス様は私をだっこして、痛くてかわいそうって言ったの。私のことを愛していますよって。私も好きよって言ったの。ここにいたいって言ったんだけど、あなたにはまだすることがあるんですよって。」

な足が以前のかわいらしい子供の姿をとどめているだけだった。もし、安らかな死の祝福を与えたいときがあるとすれば、これがそのときだったと思う。少女を待ち受けている耐え難い試練や、この先、少女がいくらかでも自立できるように介護するご両親の苦労を想像した。

ロブが、小さな少女の体の名残をとどめる部分に油を注ぎ、それからふたりに頭を手を置き、灌油を結び固めた。みたまが私を通じてあれほど力強く語った経験は、今までほとんどない。自分でも驚いたが、損なわれた体がそれに打ち勝つ力を持てると、私は祝福していた。」

ロブもジョナサンも、自分たちが与えた祝福に、しかも完全に回復するという約束に愕然としました。「しかし、私たちはふたりともすぐに、万事はうまくいくと知らされた。祝福を終えるとき、私は一瞬、指で彼女の頭をなでたのだが、私の力が彼女に吸い込まれるのを感じた。手を離すと私はぐったり疲れていた。」ロブはそう書いています。

それから数日間、セージは生死の境をさまよいました。潰瘍が出血したため手術が延期され、昏睡状態が続きました。友人たちのカンパで、ルース・デバックがガルベトン市のデニーズのもとへやって来ました。ふたりは、セージがいる夢の世界に届きはしないと、たびたび足をさすり、話を聞かせ、賛美歌を歌いました。

そうしたある日、ベッドでセージのわきに横になっていたデニーズが、娘の様変わりした顔を見つめながら、「ああ、セージ、愛しているわよ」とつぶやきました。すると、セージがさきやき返したのです。「私もよ。」

## 回復

セージはようやく昏睡から覚めて、回復の兆しを見せ始めました。自力で呼吸も始めました。話すには苦痛を伴いましたが、それも少しずつできるようにな

りました。セージはその後さらに5回手術を受け、12月23日に、クリスマス直前に何とか帰宅することができたのです。

セージは治療を受けるためにアルバカーキ市のリハビリセンターに通い始めました。やけどした皮膚は治るにつれて縮むため、それを伸ばす訓練が当面の課題でした。家では、古い皮膚をこすり落として新しい皮膚を過酸化水素水で消毒するために、最初は3時間もかかって入浴させなければなりません。歩行訓練も勇気のいる日課でした。

それから学校に戻り、自転車に乗れるようにもなりました。おそらく彼女にとって最大の試練は指を失ったことでしょう。セージは、指も髪の毛のようにまた生えてくると思っていました。絵を描くのが大好きだったので、手の指をなくしたのはつらいことでした。しかし、セージはへこたれませんでした。数カ月前にアルバカーキ市のある店がコンピュータをプレゼントしてくれたおかげで、彼女は今や、コンピュータ絵画とゲームの達人です。

しかし、生活はもう以前のようなではありません。彼女を初めて見る人は、特に子供たちはびっくりしておびえます。外見は変わっても心の中は前と少しも変わらないやさしい少女にとって、拒否されるのは絶望的な悲しみにも感じられるでしょう。

ある日セージが外で遊んでいると、ひとりの男の子がやって来ました。その子は初めて見るセージに驚いて、「お化けだ、お化けだ！」と叫びながら走り去りました。セージは傷つきましたが、無理もないと思いました。「以前は友達に私のことを笑っていたの」と彼女は言います。今はどうでしょうか。「学校ではそんなことはもうありません。お店なんかに入ると、じろじろ見る人はときどきいるけれど。」

ガルベストーン市からのセージの帰宅ができるだけスムーズにいくように、ワード部の会員は手を尽くしました。初等協会の会長会は、彼女が帰る直前の初等協会の分かち合いの時間に特別な活動を行ない、私たちは傷ついても体が不自由でも、みんな天父の子供であり、そのような人々を助けてあげなければならないことを教えました。

当時初等協会の会長であったナンシー・エルドリッジ

は、子供たちに見せるためにセージからのメッセージをビデオテープに吹き込んでもらいました。セージはビデオの中で、自分の経験や将来の希望を語りました。そして最後に、自分は今でも「前とおんなじセージ」だと友達に呼びかけました。

ナンシーは、子供たちがそれぞれ自分なりにセージに適應する必要があったと言います。彼女自身の息子にとっても特にむずかしい時期がありました。「息子はセージが好きなのですが、怖くて、それで悩んだのです。あの子は自分の気持ちが整理できるまで、セージのことが好きだし、友情も変わらないことを手紙に書いて送っていました。」

セージを2年間教えているキャシー・ウォーレンのような教師やワード部の指導者たちは、絶えずセージに心を配っています。子供たちがはしゃいでセージのことを忘れて、足の固定器具にぶつかったりしないように、彼女の居場所を確保します。CTRの指輪を渡すときには、彼女の指輪には首に掛けられるようにチェーンがつけてありました。

## 目的

**聖**典は「愛には恐れがない」と述べています。(Iヨハネ4:18)セージを愛するには、ただ彼女を知ればいいのです。ほかの感情が入る余地はありません。清い目的、愛、あきらめを許さぬ不屈の自立心。セージは私たちのだれもが人生の中で追い求めているものを持っています。

ウェブ監督は、去年セージの家族とした什分の一の面接を覚えています。「セージに『什分の一は完全に納めていますか』と聞くと、返事は『いいえ』でした。

『納めていない什分の一があるのですか』と尋ねると、セージは『はい』と言って、お金の入った封筒を取り出して机の上に載せました。

私が『明細書を書いてあげましょうか』と言うと、

『いいえ、紙を押さえてください。自分で書きますから』と言うのです。」彼女は指のない両の手で鉛筆をはさみ、苦心の末に記入し終えました。

ポルクマン家と親しい人々や監督は、セージの回復がいかに困難であったかを知っています。痛みはときど

きこらえきれないほどになります。一度自宅でリハビリを受けている最中に、もうこれ以上痛くしないでほしいとセージが母親に頼んだことがありました。デニズはセージに、泣いていやがったために親がリハビリをやめてしまった女の子のことを話して聞かせました。その少女は歩けなくなってしまったのです。

セージは「私の体をあげたい。そしたら、その子はまた歩けるわ」と言って、泣きました。

ある意味で、セージはその言葉を実現しています。セージの話は合衆国中の新聞雑誌に掲載されました。「記事が載って以来、全国から手紙が来ます」と、マイケルは語ります。がんの末期にある女性は雑誌からセージの写真を切り抜いて、よく見える所に張りました。彼女は「体が痛むとき、私はその写真を見て『おばかさん、そんなことで落ち込んじゃだめよ』と言うのです」と、手紙に書いています。

またある男性は、記事に感動し、何年振りかでも教会に通うようになったと書いてきました。

マイケルはこう語ります。「人はだれでも、この人生で何かしらやり遂げられることがある、ということを皆さんに知らせるのがセージの使命のひとつだと思います。セージは素晴らしい宣教師になれます。今だってそうなのですから。」

セージの将来を信じることは容易ではありませんでした。恐ろしい最初の日々、マイケルとデニズはセージが死ぬかもしれないと思いました。「私たちはそれまでのセージのことを考えて悲しんでいました」とふたりは語ります。「そして今度は、新しいセージを受け入れるという課題に迫られたのです。セージが癒されていくにつれ、親である私たちの霊や心も癒されていきました。」

この癒しには、親しい聖徒たちや隣人からの助けが大きな力となりました。ルース・デバックは、幾晩か、デニズと一緒に病院に泊まり込みました。2台のベッド

をつけて、頭を寄せ合い、手を握り合って寝ました。

ルースはこう述べています。「恐ろしい出来事を何とか乗り越えようと、ふたりで一晩中語り明かしました。もしセージが死んだらそれはどういう意味があるのか、生き続けることができればどうなのか。娘にかける母親の願いも気持ちも突然すべて奪われてしまったデニズは、自分を立て直さなければなりません。あの初めのころ、私たちは古い夢を捨てて、新しい夢を見なくてはならなかったのです。」

**しかし、生活はもう以前のようではありません。彼女を初めて見る人は、特に子供たちはびっくりしておびえます。外見は変わっても心の中は前と少しも変わらないやさしい少女にとって、拒否されるのは絶望的な悲しみにも等しいことでしょう。**

ルースは、その夢が実を結ぶのを見ました。「私たちにはセージがいつか神殿で結婚するのが見えるんです。やさしくて、清らかで、外見ではなくセージの霊の美しさを見ることのできる青年が、彼女の隣に立ちます。子供たちもいて、福音の中で生活し、喜びを得て、やけどはしても幸福な人生を歩んでいるのです。」

ワード部の友人、カーク・ウッドはこう語ります。「悪いことが起きたとき、ある人たちは主に近づきます。でも恨みを抱いて、主に頼る機会を失ってしまう人もいます。ボルクマン家の皆さんは主を信頼し、そのために霊的に成長しました。」

このことは私たち皆にとってつらいことではありましたが、すばらしいことでもあったのです。痛ましい出来事をすばらしいなどと言うには抵抗がありますが、でも、何が本当に大切かということ

を私たちは教えられたのです。表面的なものは取り去られて、本当に大事なものだけが残りました。」

マイケルは謙虚に語ります。「私たちは本当に運がよかったです。福音がありますから。」

デニズはほほえんで、マイケルを見、アベリーとセージを見つめ、ただこう言いました。「福音が癒してくれるのです。」□

# 二度目のバプテスマ

ゲイ・ガルト

**毎**月第3週目に、私の家では大勢のワード部会員のために特別な家庭の夕べを開いています。しかしある夜の出来事は、参加したすべての人にとって特に記憶に残るものとなりました。

いつも集まってくるのは、夫や妻を亡くした人、新しく改宗した人、近所に引っ越してきたばかりの人などです。私たちは軽食を取りながら楽しく語り、その後私たちが「分かち合いの時間」と呼ぶようになった時を過ごします。この時間はひとりかふたりの人が自分たちの生活について語り、お互いにもっとよく知り合うための時間です。

私たちは皆、ひとりの年配の兄弟と新しく改宗したその奥さんと知り合いになり、私たちの家庭の夕べに招きたいと思いました。しかし、ふたりはいつも教会には来るのですが、私たちの毎月の集まりには来れそうにないという様子でした。半ばあきらめかけていたある週のこと、ふたりに私たちの集まりに参加するつもりだと言われたとき、私は本当にうれしく思いました。

ところが、家庭の夕べの前夜、この兄弟から電話がありました。彼の声を聞いたとき私は大変失望してしまい、からかうように「まさかまた来れないなんておっしゃるのではないでしょうね」と言いました。彼は笑いながら、こう返事をしました。「ちょっと待ってください。今回なぜ行けないのかを聞いてください。きょうの午後、監督が私に電話をくださり、再度のバプテスマが許可されたとおっしゃったのです。」

私はそれまでずっと彼が教会の正会員だと思っていたので、このことを聞いて驚きました。「待っていることは私にとって長くつらいことでした」と彼は続けました。「もう一度バプテスマを受けることが私にとってどんなことか、あなたにはとても想像できないでしょう。私は今すぐにも受けたいのですが、バプテスマ会は明日になりました。」そこで私は、「明日は家庭の夕べが計画されているので、だれも出席できないのが残念ですが、よ

いバプテスマ会であるように願っています」と伝えました。

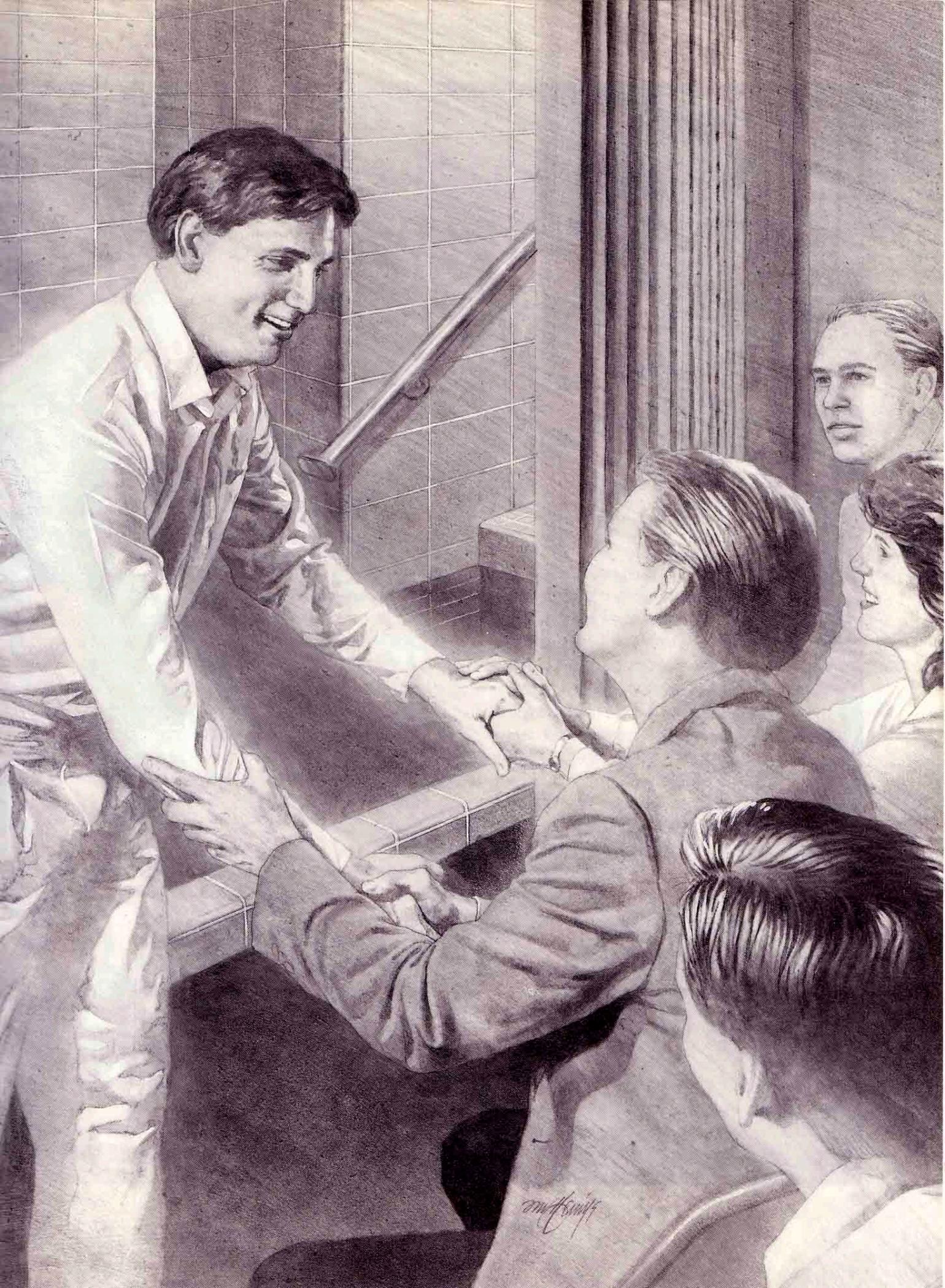
しかし、次の日の夜、家庭の夕べの準備をしているところに電話が鳴りました。受話器の向こうでは、監督の奥さんがひどく慌てた声で、医者である監督が救急患者のために病院へ呼ばれたと説明してくれました。さらに困ったことには、ワード部の伝道主任も出張して留守でした。バプテスマを受ける兄弟は、数人の自分の家族と共に、礼拝堂で待っているということでした。

監督の奥さんがステーキ部長と連絡を取っている間、私の夫は家庭の夕べに出席している人たちに事情を話さ、こう言いました。「礼拝堂には当人の家族以外はだれもいないのです。皆さん、これから礼拝堂に行って、人生の大事に臨んでいるこの兄弟を助け励ましていただけないでしょうか。」

夫の言葉を聞くと、私たちの胸はみたまに満たされました。礼拝堂に急いで車で駆け付けると、ステーキ部長が心配して待っていました。席に着くと、礼拝堂内は強いみたまに満たされ、皆の目に涙があふれ始めました。バプテスマを受けるその兄弟は進み出て、目に涙を浮かべてほほえんでいる愛にあふれた人々の顔を見て、こうささやきました。「私にはすべてがうまくいくこと、そして皆さんがここに来てくれることがわかっていました。」

それに続いて、霊的で力強く麗しい集會が行なわれました。それは私たちのだれひとり、決して忘れることがないと思われるものでした。会が終わると、私たちは新しくバプテスマを受けた兄弟を祝い、「私たちはあなたを愛しています」と言いました。彼は私たちを抱きしめ、皆の前で泣きました。それから私たちは家庭の夕べに戻り、バプテスマ、悔い改め、福音のもたらす奇跡について証を述べ合い、この上なくみたまに満ちあふれた霊的な一夜を共に過ごしました。□

\*ゲイ・ガルト姉妹：カリフォルニア州ターロックステーキ部ヒューサンワード部所属。



# バルター・スパットと 南アメリカ最初のステーキ部

ネウザ・ロング

バルター・スパット兄弟は、1954年、ブラジルのサンパウロの繁華街にあるセントロ支部で、支部長を務めていました。ちょうどこの年、支部の教会員は支部予算を調達するために、バザーを開きました。このパーティーでは数々の賞品が準備されており、その中には、精巧な細工を施した装飾品や、美しい絵、そして聖典からの引用句が書き込まれたタイルを額縁に入れたものなどがありました。会員の中には、「資金調達のためだからといって、こんなにたくさん的高価で手の込んだ贈り物を買うなんて、ぜいたくすぎないかしら」といぶかる人たちもいましたが、やがて得心しました。それらの贈り物は、実は、最低の経費で、多大な努力を傾けて、スパット支部長がみずから工夫して作った善意の品々だったからです。

バルター・スパット兄弟にとって最大の気分転換は、絵を通して自己を表現することでした。1989年にこの地上を去るまでの生涯で、彼は、文字どおり何百にも上る油絵を残しました。しかし、スパット兄弟の人生の大半は、家族や教会のために使われ、自分の興味や野心がそれよりも優先することはありませんでした。第一次世界大戦後、家族と共にブラジルのサンタカタリーナ州にドイツから移住してきたスパット兄弟は、優れた工芸家および家具の設計士として成功を収め、歴史の浅いブラジルの教会で改宗者として勤勉に働き、そしてついには、南アメリカで最初のステーキ部長となったのです。

スパット兄弟は、1950年にバプテスマを受けました。そして、主のみ業は、その後すぐに始まりました。当時

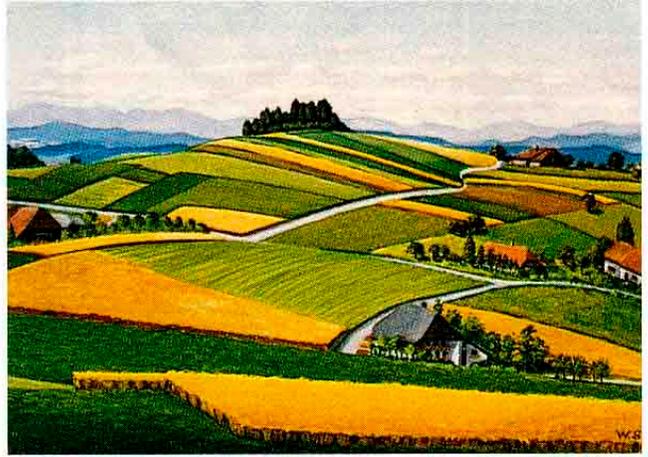
彼の両親と兄弟はすでにドイツに帰国していました。スパット兄弟も、サンタカタリーナにある家族の農園を売り払った後で合流することになっていました。しかし、第二次世界大戦が勃発したため、ブラジルにとどまることになり、1946年スイス移民のエディット・アルトマンと結婚することになりました。ふたりは、サンパウロに引っ越し、スパット兄弟はここで家具職人として働くことになりました。そのような中で、間もなくふたりの家庭に宗教に関する疑問が生まれました。

エディットは定期的に教会の礼拝に出席していましたが、バルターは同伴するのを拒否していたのです。「もし、真の教会が見つかったら、その教会の熱心な会員になるよ。」それがスパット兄弟の言い分でした。そのような教会が存在するはずだと思っていたのです。そういうわけで、エディットは毎朝、スパット兄弟が仕事に出かけると、真の教会に導いてくださるように、ひざまずいて神に祈り求めました。5カ月後の1949年11月、末日聖徒イエス・キリスト教会のアメリカ人宣教師がドアをノックしました。

それから5カ月にわたって、スパット兄弟は宣教師のレッスンを受け、聖典を読み、教会の集会に出席しました。そうするうちに、次第にこの教会が真実であること

ヨーロッパからの若い移民であったバルターとエディットは、ブラジルで出会い、数年後には家庭を築き、福音に献身する家族を作りました。





PAINTING BY WALTER SPÄT

に確信を持てるようになり、1950年3月20日、ついにバプテスマを受けたのです。同じ年の10月に、エディットも教会に入りました。厳格なプロテスタントの宗派に育ったエディットにとって、末日聖徒の生活習慣の中には受け入れ難い面もありました。特に、教会の建物の中で行なわれるダンスパーティーがそうでした。「本当の意味で、この教会がまさしく主の教会であるという確信が持てるようになったのは、バプテスマを受けてから数年間モルモン経を読んでからです」とエディットは語っています。

確信を得たスパット兄弟は疲れを知らないかのように働き、真実の教会に自分を捧げました。まず、長老定員会の会長として働くように召しを受け、その後、支部長、副伝道部長、地区評議員などの責任を歴任しました。スパット兄弟の友人であり、教会における数々の召しを共に果たしてきたジョウゼイ・ランバルディ兄弟は、次のように述べています。「スパット兄弟が、その召しを果たすときに見せる情熱と献身ぶりには、完全に近いものがあります。彼は自分自身に多くを期待しました。ですから、ほかの人にも多くを期待したのです。」

どのような指導者だったのか、ということについてランバルディ兄弟はこのように語っています。「彼は厳格な指導者で、厳しい人だと思われていました。しかし、自分がだれかを傷つけてしまったことがわかると、涙を流して何のためらいもなく赦しを求めることがよくありました。」ランバルディ兄弟はあるひとつの出来事を覚えていて、彼とスパット兄弟がふたりで、ある教会の

責任を果たしている途中に、口論をした時のことです。「私は、日曜日の集会に戻り、ちょうど聖餐会に間に合いましたが、とても聖餐を受ける気になれませんでした。ところが、会の始まる直前に、だれかが私の肩に手を置くのです。スパット兄弟でした。彼は、ふたりとも良い気持ちで聖餐を受けることができるように、謝りたいと言ったのです。」

それから間もなくして、1966年の5月、ある晴れた日の朝のこと、スパット兄弟の人生に、そしてブラジルとラテンアメリカ全土に住む末日聖徒の人生にすばらしいことが起こりました。ブラジルのサンパウロに、ワード部7つと支部3つから成るラテンアメリカで最初のステーク部が組織されたのです。そして、スペンサー・W・キンボール長老がステーク部長として支持するように提案したのは、バルター・スパット兄弟でした。

このステーク部は、南アメリカ最大の都市であり、世界で最も人口の多い都市のひとつサンパウロを擁し、管轄区域は広範囲にわたっていました。スパットステーク部長は、ワード部を援助し、ステーク部の新しい指導者を訓練するため、彼の下で働く高等評議員の力に頼りました。かつてはひとつの伝道部であったこの地域のワード部やステーク部の指導者を強めるために力を尽くしたことで、スパットステーク部長は会員の尊敬を得ました。

スパット兄弟がステーク部長を務めていた当時のことを、ブラジルで伝道したマーク・グローバー兄弟は、次のように述懐しています。「彼は、あまり感情を表に出すことはありませんでしたが、驚くほど気を遣う人でした。



そして、信じられないほど立派なステーク部長でした。彼は何かを行なうとき、必ず、きちんと主のみこころにかなう方法で行なうようにしていました。」

スパット兄弟は、このころには息子のオズベルドと娘のグローリアの父親となっており、家具工場を自営し忙しく働いていました。娘のグローリアは次のような思い出を語っています。「父は普通6時前にはもう仕事に出かけていました。自分の時間は限られていましたが、私たちにとっては良い父親でした。私たちは父に、気分転換のために休暇を取るようと勧めましたが、働き者の父には無理な話でした。絵を描くことが趣味でしたが、その時間すらも退職するまでは持てませんでした。」

スパット兄弟は、家族に、「神殿での召しが終わったら」休みを取ると言っていました。しかし、それも10年6カ月の間ステーク部長としての働きを終えるまで、できませんでした。サンパウロ神殿が完成間近となったとき、スパット兄弟は、神殿の業務開始と奉献を担当とする実行委員会のメンバーに選ばれました。彼は神殿内の美しい家具調度品を設計し、後に地区代表としての責任を果たし、副神殿長に召されました。

1984年、スパット兄弟は、退職し、数年間、油絵に多くの時間を注ぎました。息子のオズベルドはこう語っています。「父は、自然を描くのが大好きでした。絵を描くときも、教会の召しを果たすときと同じで、完全を目指し、心を打ち込み没頭していました。この世を去る前に、300ほどの油絵を描いたと思います。」

スパット兄弟姉妹は神殿宣教師として働きましたが、

あと3カ月で任期が終わろうというときに、スパット兄弟は悪性のがんに冒され、人生で初めて病の床に伏すことになりました。病気で寝ているときに、彼は自分の人生について思い巡らしました。グローリアはこう語っています。「父は、人生で多くのことを成し遂げたことがわかったでしょう。ただ、もう少しバランスの取れた人生が送れたのではないかとということもわかったのではないのでしょうか。多くの苦しみの中にあって最後は穏やかな父の姿がそこにありました。父にとって最も幸せだったのは、家族がイエス・キリストの福音に関して、揺るぎない証を持っていたことでした。」

バルター・スパット兄弟は1989年5月15日にこの世を去りました。

今、サンパウロには、ふたつの伝道部と14のステーク部があり、約4万7千人の会員がいます。ブラジルの多くの教会員は、教会がブラジルでまだ始まったばかりの「初期の時代」を思い出します。そしてブラジルの教会の開拓者の話になると必ず出てくる名前、それが、バルター・スパットなのです。□

\*ネウザ・ロング姉妹：ブラジル・サントアンドレスステーク部サントアンドレワード部会員。この記事に関する情報のほとんどは、ブラジル・サンパウロの教会翻訳課課長フラビア・エルボラト姉妹によって提供された。



左：1962年以来ブルックリンに住むゴンザロ・アエルティス夫妻は、子供たちが祖国の文化や伝統を忘れないように努めた。現在アエルティス兄弟は、ブルックリン第2ワード部の監督である。  
下：ブルックリン第1ワード部の会員、チェリル・ロバーツ姉妹とライザ・モーガン姉妹。

## 世界の窓、ブルックリン



グレン・ネルソン

ブルックリンにある教会堂での集会に出席していると、国際連合の総会に出席しているような錯覚を覚えます。この教会堂を使用するユニットは使う言語（英語、スペイン語、中国語）によってふたつのワード部とひとつの支部に分かれているのです。

しかし、ブルックリンに集う教会員の国籍は、3つに分類できるほど単純ではありません。たとえば、ブルックリン第1ワード部は、アルゼンチン、オーストラリア、バルバドス、エルサルバドル、イギリス、エチオピア、グレナダ、グアテマラ、ハイチ、イタリア、ナイジェリア、パキスタン、パナマ、フィリピン、プエルトリコ、スイス、トリニダード、トバゴなどの国から来た人々が集っています。またアメリカ人の教会員の出身地も多種多様で、文字どおり全国から集っています。ブルックリンで生まれ育った人たちでさえ、民族的に様々な背景を持ち、少しあげただけでもユダヤ人もいればイタリア系やアフリカ系のアメリカ人もいます。

ブルックリンの教会の歴史は、ブルックリンの町の歴

史そのものです。ブルックリンはほかの4つの独立区と合わせてニューヨーク市を形成していますが、ブルックリンだけでも合衆国第4位の人口規模を誇っています。ブルックリンは人種のるつぼだと言われていますが、それは今も昔も変わりません。推定によれば、1940年当時すでに、全アメリカ人の4分の3が、その先祖にブルックリンに住んだことがあるかブルックリンを訪れたことのある人がいたことがわかっています。

ブルックリンに教会の支部が開設されたのは、遠く1837年のことになります。1840年から1890年までの間、教会が組織した移民団に加わって5万人のヨーロッパ人改宗者が続々とブルックリンに到着しました。その後さらに数千人の聖徒たちがニューヨークに入港し、こうしてブルックリンは、長年の間移住しようとする教会員たちの主要な入港地となったのです。

しかしブルックリンの教会は、設立以来、遅かれ早かれほかの土地へ旅立つ人々の一時的な停留地としてその役割を果たしてきました。1846年、教会は西部への入植





左：ブルックリン第1ワード部に転入してきたペトルース家族は、常にみたまに頼ることの大切さを知った。左から、ラケル、グレゴリー、サラ、マイク、そして母親のミーライル。

上：多様な人種構成を持つニューヨークステーキ部には、中国人の教会員もいる。訪問者のアリス・チュウさんをフェロースHIPするトーマス・コー兄弟。

下：ブルックリン第2ワード部若い男性会長会第一副会長のボニフォシオ・ガニス・リオス兄弟。



を開始するために、カリフォルニアへ教会員を運ぶ最初の船をチャーターしました。この船の名前は「ブルックリン」でした。

ブルックリンのワード部を構成する会員は、今では50年前とは違っていています。50年前はヨーロッパから来た聖徒たちがほとんどでしたが、現在では赤道付近の国の出身者の割合が多くなっています。しかし、出身地が他国であれ合衆国内のほかの州であれ、ブルックリンワード部のほとんどの人が、ある意味では「よそ者」であることに変わりありません。ブルックリンで生まれ育った成人会員の数は、ワード部に集うほぼ1,200人の教会員の中にあってはほんのわずかにすぎません。

そうしたブルックリンの末日聖徒の忠実さと多様性を代表するのが、ミーライル・ペトルースと彼女の家族です。ミーライルたちは8年前にハイチを出て合衆国に来



ブルックリン第2ワード部のランディー・ダウ兄弟は、長年、青少年と共に働いてきた。それでも今、ブルックリンで「今まで経験したこともなければ、これからも経験することのないような問題」に直面している。

ましたが、慣れないアメリカ社会の中で、教会から多大な援助を受けました。「教会のおかげで霊的な水準が下がることはありませんでした。」ミーライルの一番年かきの子供ラケルはそう語ります。ミーライルは今、ほかのフランス語を話すハイチ人教会員のために、日曜学校の教師として奉仕しています。彼女は犯罪と貧困で悪名高いブルックリン地区で4人の十代の子供を育てることに、それほど恐れを抱いていません。彼らに十分な備えをさせてきたからです。恐ろしく危険な経験について語る子供たちの表情からは、逆に落ち着きと安心感が読み取れます。ラケルはこう言います。「何をすべきか、何をすべきでないかを知るためには、いつもみたまに頼らなければなりません。」

ブルックリンで熱心な、やる気のある末日聖徒の青少年を生み出しているのは、堅固な家族と活発なセミナープログラムです。しかし、長年若人と共に働いてきたメイン州出身のランディー・ダウ兄弟はこう語ります。「セミナーが始まったのは何年前ですが、始まった直後は生徒がふたりしかいませんでした。両親が夜遅く子供を外に出したくないという問題もありましてね。」ブルックリンでは個人で車を持っている人はあまりいません。でも、相乗りのグループができ、その後、毎週レッスンの後に活動が行なわれるようになりました。今では、生徒たち全員の意志により、金曜日の夜にセミナーが開かれています。

ダウ兄弟は、若人が直面している問題にしばしば驚かされます。「ある週のセミナーは、ひとりの生徒の学校で起きた殺人事件の話から始まりました。ここでは私が今まで経験したこともなければ、これからも経験することはないと思われるようなことが起こります。」しかし、彼は十代の若人と共に働き、彼らの人生に影響が及ぼせることに心から感謝の気持ちを示しています。

私たちはホンジュラスとニカラグアの出身であるゴンザロ・アエルディス夫妻に、「お国と比べてここは大変じゃないですか」と質問してみました。答えは楽観的でした。アエルディス姉妹はこう言います。「ここの方が暮らしやすいですよ。いつも仕事がありますからね。」彼らは1962年、小さな子供を5人連れてブルックリンにやって来ました。それからまた子供がふたり増えました。ア

エルディス兄弟は41歳で大工の職を得、しかもそれから7年後、アエルディス家族は家を購入することができました。これもブルックリンではめったにないことです。今ではアリゾナでの伝道を終えて帰還した末娘を除いて、全員が結婚しています。

現在でもアエルディス夫妻はスペイン語で話していますが、子供たちが英語とスペイン語の両方を話せることを誇らしく思っています。アエルディス姉妹はこう言います。「引っ越してきたばかりのころは、スペイン語の学校もワード部もありませんでしたから、家では子供たちにスペイン語を話させて、忘れないようにさせたんです。」

アエルディス兄弟は今、ブルックリン第2ワード部の監督です。第2ワード部はスペイン語で集会が行なわれています。アエルディス兄弟が今でも思い出すのは、合衆国での永住権を得るために家族で判事のところに行ったときのことです。「子供たちは長いベンチの上に私たちと並んで静かに座っていました。まるで天使のようでしたよ。」それを見た判事は、子供たちがニューヨークの悪に染まってしまうことを恐れて、こう言いました。「こんなにかわいいお子さんたちを、こんなところに連れて来るなんて。」アエルディス姉妹はそれに対してこう答えました。「家や家具や衣服は国に置いてきたかもしれません。でも、私たちの伝統はしっかりと身に付けてきました。」

ブルックリンのワード部や支部の異文化共存は、ほかに類を見ません。でも、たとえ言語や文化、人種の違いが旅行者や新会員たちを魅了することはあっても、ほとんどのブルックリンの教会員はそうした違いには無頓着です。逆に、互いに共通するものにもっと心を向けようとしています。それは、福音への証であり、このブルックリンに来るようになったいきさつであり、また堅固な家族生活と青少年に向ける熱意なのです。□

\* グレン・ネルソン兄弟：以前はブルックリンワード部、現在はニューヨーク州ニューヨークステークス部マンハッタン第2ワード部所属。妻と共にろうあ者の教会員のために奉仕している。



# 鳥のさえずりと スマレ

トーマス・J・グリフィス

**父**が変わっていることは、ウェールズの一寒村で家族と一緒に過ごしていた幼い私でさえ気付いていました。村の男たちの大半は地元の鉱山で働く坑夫です。彼らの生活は先祖の代からほとんど変わっていません。昼は炭坑にもぐって働き、夜は土地の酒場でゲームに興じ、ビールをあおって過ごすのです。

坑夫というありふれた仕事と貧しさのために、彼らの衣服はかなり粗末なものでした。日曜日に教会に着ていくスーツはほとんどの人が持っていたし、靴も多少磨いてはいましたが、普段着ているのは見苦しいものでした。しかし、父の場合は違っていました。身なりはいつも整っていたのです。

私の父は中背で胸が厚く、とてもたくましい人でした。黒い髪にはいつもくしが通っていて、きれいに整えられた口ひげは、父の容姿を一層引き立てていました。父のスーツは注文仕立てでした。家を出て村に行くときは必ず身なりを整えて行ったものです。靴はいつも光っていて、よく庭から一輪の花を取ってスーツの襟に差していました。

ここまで読むと、父が同僚たちを見下していたような印象を読者の皆さんは受けるかもしれませんが、実際はそうではありませんでした。父はどのような人にも親しみのこもった笑みを向け、親切な態度で接しました。

若い時分に父は庭師で、庭園を持つ富豪の家で何年も働いてきました。父の最後の雇い主は、きわめて高価なブドウの木を何本か持っていました。ずっと放っておいたために伸びるに任せ、荒れ果てていました。できたブドウの実も質の悪いものでした。父はその雇い主からブドウの手入れを依頼され、もう一度良質な実を収穫できるようにしてほしいと言われました。腕の立つ庭師だった父は悪い枝を茎の部分から全部切り取ってしまいました。ブドウの栽培の仕方を知らないその雇い主は、これにいたく腹を立て、父は職を失う結果となりました。

こうして父は庭師の仕事をあきらめ、炭鉱地帯に越してきたのです。ここで父は鉄道の保線作業員の仕事に就き、1年ほどで腕を認められ、作業監督に昇進しました。

父の庭は村の人たちからうらやましがられていました。雑草は1本もなく、家で育てている野菜は、小さな兵隊のようにまっすぐ一列に並んでいました。父はいつも母に洗濯で出たせっけん水をとっておかせ、それを野菜の上にかけていました。せっけん水の灰汁が害虫を殺す役目を果たすことを、私は後になって知りました。

父は家族を愛していました。夜は酒場には行かず、アコーディオンを弾いて家族を楽しませ、私たちに歌やダンスを教えてくださいました。

父が教会に改宗してから、日曜日の午前中は、いつも特別なひと時になりました。日曜学校を終え、母が食事の準備をしている間、父は私たちを丘まで散歩に連れて行ってくれました。そして散歩しながら自然や歴史について教えてくれました。古代ローマ人が建てた古い石垣のそばで立ち止まり、ローマ帝国の偉大さについてよく話してくれたものです。観衆で沸き立つ闘技場で腕を競う古代ローマの剣闘士の話など、私たちはまるで目の前で見ていくような気持ちで聞いたものです。かつての偉大な帝国の崩壊についても父は説明してくれました。

父はまた自然観察への興味をも私たちの心に植えつけてくれました。あるとき父は、生垣の下からスマレの花を摘み、私たちをそばに呼び寄せて言いました。「スマレは小さな花だけど、神様からいただいた、たくさんのものを持っているんだよ。愛らしい香りどんなビロードよりやわらかい花びら、しかもこれらはすべて大地の土と太陽の光からできるんだ。」

あるとき散歩の途中で、私はヤマアラシを見つけました。ヤマアラシは茂みの下に逃げ込み、小さなビーズのような目でこちらをじっと見つめていました。私が棒でつつこうとすると父が止めました。「小さな生き物をいじめちゃいけない。それでなくてもヤマアラシは犬やキツネにいつも追いかけているのだから、そっとしておいてあげよう。」

一度、父は足を止め、静かにするようにと合図したことがありました。父は空に浮かぶ一群の黒い雲を指して、「耳を澄まして聞いてごらん、神様の声が聞こえるだろう



う」と静かに言いました。立ち止まって耳を傾けてみましたが、聞こえてくるのは鳥のさえずりばかりでした。私にはこの時神様の声を聞くことはできませんでしたが、ずっと後になってから父の言ったことがわかるようになりました。

雨の降るある夕べのことでした。家族が暖炉の回りに座っていたとき、突然私はあることを思いつきました。「お父さん、お父さんの家の、ぼくたちのおじいちゃんとおばあちゃんの話聞かせてよ」と幼い子供には似合わないはっきりとした口調で言いました。「お母さんの家のおじいちゃんやおばあちゃんには会ったことがあるけれど、お父さんの方のおじいちゃんやおばあちゃんのことは何も聞いたことがないんだもの。」

父はしばらく暖炉の火をじっと見つめてから答えました。「トーマス、それはいい質問だ。でもお父さんは、お前たちのおじいちゃんについてあまり知らないんだ。2、3年前に死んだお前たちのおばあちゃんは、私の生まれた少し後におじいちゃんは亡くなったと話してくれたんだが、私はお墓に一度も行ったことがないんだ。いつかお墓参りに行かなければね。」

しばらくたって、父は1日の予定で田舎に出掛けてくると言い出しました。親戚が何キロか離れた村の小さな家に住んでいたので、父の外出は取り立てて変わったことではありませんでした。

その夜父が家に戻ると、その様子から何かよくないことがあったとわかりました。2、3日後、父は家族を集めて自分が知ったことを話してくれました。

父はランビャンゲルという村の古い教会を訪ね、自分の父親と自らの出生記録を見つけ出したのです。家族に語った父の話の内容は次のようなものでした。

谷の上の小さな炭鉱の村に、ひとりの女の子が父の祖父母のもとに生まれ、ローンワンと名づけられました。16歳のとき彼女は裕福な家庭に女中として働きに出されました。ところが1年とたたないうちに、彼女は身ごもって家に戻って来たのです。金満家の主人が彼女の無知に付け込んだのでした。彼女の妊娠が知れると主人

は2カ月分の給金を払って、彼女を家に戻したのでした。

ローンワンは出産を迎える前に村のある若い男性と結婚しました。彼女は赤ん坊に洗礼を受けさせず、出生の記録も残しませんでした。この子供はローンワンの夫の姓を名乗って育ちましたが、ローンワンの夫は、赤ん坊が生まれた直後に、炭鉱の事故で亡くなりました。

父の出生の記録は後に教会の牧師がつけましたが、出生の事情を知った父の生活は一変しました。父は庭の手入れをやめ、身なりにも関心を示さなくなりました。陽気な性格が陰気で不気嫌になりました。

それからしばらくたった、ある日のことです。普段は天使のようにやさしい母が、父を愛用のいすに座らせました。いつものやさしきは消え、母の目には何か燃えるようなものがありました。「あなた、あなたのしていることはばかっているわ。悪い男が若い女の子をだまして、ひとりの子供が生まれた。それだけのことであなたは自分をのろい、家族にもそののろいを負わせているのよ。あなたをこの地上に送ったのは神様なのよ。そして私はあなたがすばらしい人だとわかったから、愛して結婚したのよ。」

母はなお力のあるまなざしを父に向けたまま、また言いました。「あなたが自分と家族をだめにするのをそばで見ているなんて我慢できないわ。」

母は父の首に腕を回し、今度は愛のこもった声でこう言いました。「私のウィリアム、人は過去に生きることはできないわ。あなたには私がいて、子供たちもいる。そして皆愛し合っているわ。罪を犯した人がいたことは確かだけど、それはあなたではなかった。私たちには福音があり、あなたは神の神権者だわ。これ以上、何が不足なことがあるかしら。」

そのときでした。父は苦悩から解き放たれ、目に涙が込み上げてきました。それは父の苦痛を洗い流し、心に生気を呼び戻しました。その時以来、父はまたもとの愛する父に戻ったのです。私たちは再び丘を散策し、父は庭や草花の手入れをまた始めたのでした。□



# 友達

パトリア・R・ローパー

以前からの友達も新しくできた親友も私を避け始めました。私はとても傷つきましたが、ある日決して私を見捨てることのない友達がいることに気がついたのです。

中学1年生の時、私はあるひとつの経験をしました。それは私の心を傷つけ、その後も深い傷跡を残しかねないものですが、その経験が今では私の人生の中で最も大切なものとなっています。すべてはかけがえのない私の友達のおかげなのです。

その年、同級生の女の子たちは仲間作りを始めました。いくつものグループができ、学校中の人気者がそろったところが「ベストグループ」と呼ばれるのです。私の友達は皆ベストグループに入っていました。私も初めはそうだったのです。ところが何かが起こりました。私にはそれが何なのかははっきりわかりません。

ある日のことです。学校の人気者のひとりであるボニーが私のところに来て私がグループから外されると言いました。

「でもどうして？」私は聞きました。「私が何をしようと言うの？」

「ただあなたとはもう付き合いたくないだけよ。」ボニーがそう答えました。

その時私は、新しい友達を作らないといけないと思いました。そうすればグループの人たちはしっとし、私が傷ついてなどいないことがわかるでしょう。私はビッキーという新しい友達を作りました。ビッキーを選んだわけは、あの人たちがビッキーのことを気にかけてたりはし

ないという確信があったからです。ビッキーはとても背が低くやせていて、きれいな子だとは言えませんでした。でもビッキーはすばらしい友達になったのです。

ビッキーと私はいつも一緒でした。私たちふたりは楽しいと思うことが同じでした。私はだんだんとビッキーといるのが大好きになり、ビッキーさえいればほかの人たちは必要ないと考えたのです。

ビッキーと私が友達になって間もないころ、私たちは学校の芝生に腰を下ろしてソーダを飲み、キャンディをなめながら笑い転げていました。すると突然、ビッキーの表情が真剣になりました。笑うのをやめ、キャンディの包み紙をもじもじとじっています。やっと私の方を見たビッキーの顔から何か大切なことを言おうとしているのがはっきりとわかりました。

「どうしたの？」私は尋ねました。

ビッキーは返事をする前に気持ちを落ち着けようとしていました。「私には今まで親友なんていなかったのよ。」私の目をまっすぐ見て言いました。「私たち、ずっと親友でいるって約束できる？」

「もちろんよ。」幸せな気分でした。私はキャンディの包み紙を拾い上げてほほえみました。「約束するわ。」

しばらくすると、あのグループがビッキーに近づき始めました。「いらっしやいよ、ビッキー。」「一緒に食事を

しましょうよ。」「私たちのグループに入らない？」

初めはビッキーもうまく断わっていたのですが、そのうちにだんだんと断わるのがむずかしくなりました。

あの日のことを私ははっきりと覚えています。学校に着くと私はいつものようにまっすぐビッキーのロッカーに向かいました。廊下の端から、グループの皆がビッキーを取り囲んでいるのが見えました。私が近づくとつれて、皆の笑い声は大きく陽気になっていきました。私の以前の友達がふたり、ちらっと横目で私を見て、わざとらしく体をのけぞらすようにして笑いました。

ビッキーは私を見ませんでした。自分が注目の的になっていることに夢中だったのです。私はそのことを責めるつもりはありません。それにしてもビッキーはもうあの約束を忘れてしまったのでしょうか。

そのうちにグループの女の子たちがビッキーを真ん中にして皆で腕を組み、廊下を意気揚々とやって来ました。そして私のすぐ横を通って行ったのです。まるで私などそこにいなかったかのように。

今度ばかりはショックでした。私はどんなに傷ついたか隠そうとしたのですが、彼女たちにわかってしまったに違いありません。

そしてある日、私の人生の中でも最もすばらしい出来事が起こりました。私にはひとりの友達がいることに気がついたのです。あのグループがどんなことをしても取り上げることのできない友達です。いつでも私のそばにいて、いつでも話しかけられ、決して私を見捨てること

のない友達なのです。

この驚くべき発見をしたとき、私の心に温かい感動が広がりました。その感動はどんどん大きくなり、ついにはすっぽりと私を包んだように感じました。天のお父様が私を愛していると語りかけてくださっているんだ、そう気がついたのです。私は叫びたいような笑いたいような泣きたいような、そんな気持ちでした。今までに味わったことのないすばらしい気持ちを感じ、とても愛されているのがわかったのです。

しばらくして、ポニーが近寄ってきてぎこちなく言いました。「元気？」

「ええ。」私は戸惑いながら答えました。長い沈黙の後、ポニーが口ごもりながら話し始めました。「思うんだけど、もう一度あなたが私たちの仲間にならないかしらって。実は多数決を取ったのよ。そうしたらほとんど皆が今でもあなたのことが好きなの。」

「それはありがとう。考えてみるわ。」皆が私をグループに戻したがっているのはうれしかったのですが、今ではもうグループにいることはそれほど重要なこととは思えなくなっていました。

この経験を通して私は本当の友達を見つけました。そして、私にしてくださったことへのお返しに、私も何かをしたいと思います。私は聖書の言葉を思い出しました。「あなたも行って同じようにしなさい。」(ルカ10:37) 私は今友達を必要としている人を探し始めています。□



「カナの婚礼」カール・ヘンリック・ブロック画

ガリラヤのカナで婚礼に招待されたイエスは、水をぶどう酒に変えるという最初の奇跡を行なわれた。ぶどう酒になった水をなめてみた料理がしらは、それがどこからきたのか知らなかったが、「水をくんだ僕たちは知っていた。」(ヨハネ2：1-11参照)



ハ イチ出身のこれらのフランス語を話す聖徒たちは、  
ニューヨークステーク部のブルックリン教会堂の集  
会を国際色豊かなものとしています。左からパール・ソー  
ン姉妹、エミー・ウバ兄弟、モニカ・オグル姉妹(「世界の  
窓、ブルックリン」p.36参照)

# 知恵の言葉——主の警告

昨年12月のある朝、地域会長のリパート長老が、香港のとある山道を散歩したときのことです。その道は、樹木や植物のつる、様々な種類の草花が至る所で道を覆うほどに生い茂り、日の光までさえぎるほどでした。リパート長老がちょっと足を休めて辺りの静寂に耳を澄ませ、青々とした木々を眺めていると、道の傍らの1本の木に目が留まりました。幹の太さは15センチほどでしょうか、絡まったつるや厚く重なった葉にじゃまされて頂の枝はゆがんでしまい、下の方の枝にまばらに残っている葉まで成長に必要な日の光が届かない有様です。近寄ってよく見ると、水道のホースよりも少し太い1本のつるが、根元から幹に巻きついて上まで伸びています。つるは木が成長するに従って伸び、双方の成長が進むにつれて、さらに強く幹に巻きついていました。しかも伸びた跡がそのまま樹皮に深く食い込んでいます。日の光を求めて生え出たばかりのまだ柔らかいときであつたら、つるはすぐに抜き取ることもできたでしょう。けれども、今はすっかり木の一部と化して引きはがそうとすればもとの木もだめになってしまいます。さらに、この寄生植物はすでにもとの木から影響を受けないほどに成長しています。かつては柔らかい芽にすぎなかったつるがこの木に寄生して成長を続け、ついには大きな木的美観を損ない、最終的には枯死させてしまうことでしょう。

この木と寄生したつる、そして私たちの生活とある種の有害な習慣との間には、はっきりとした類似点があります。いくつかの行ないや態度はきわめて有害な習慣になるため、主はそれらについて警告しておられます。こうした警告は数多くありますが、特にここでは知恵の言葉に含まれた勧告につい

て取り上げてみたいと思います。

予言者ジョセフ・スミスは同胞の兄弟たちのある習慣について主に尋ねました。その状況についてブリガム・ヤング大管長は次のように語っています。

「最初、予言者の塾は、予言者ジョセフの家の台所の上にある小さな部屋で開かれていた。この家はホイットニー監督所有のもので、……彼の店に隣接していた。台所はこの店の裏にあり、……この台所の2階が予言者が啓示を受け、兄弟たちに訓告を与えた部屋である。兄弟たちは……塾に出席しようと、はるばる数百マイルも旅をしてやって来た。そして朝食の後でこの部屋に集まったとき、彼らはまずたばこに火をつけた。そしてたばこの煙の中で神の王国の偉大な教義を語り合ったのである。また部屋中至る所につばきを吐いた。パイプのたばこがなくなるや、今度はかみたばこである。このような状態だから、予言者が講義をしに部屋に入ると、部屋の中が煙でもうもうとしていることがしばしばであった。また、彼の妻が非常に汚れた床をいつも掃除をしなければならぬと不平をこぼしたことから、予言者はこの件について思い巡らし、長老たちがたばこを吸うことに関して、主に伺いを立てた。その結果下されたのが知恵の言葉として知られる啓示である。」（『説教集』12：158）

忠実な教会員がお茶、コーヒー、アルコール性飲料、たばこを口にしないことで、教会は広くその名を知られています。教会ではこの条件に従うことが、個人のふさわしさを判断する際のひとつの標準になっています。神殿に参入するためのふさわしさを判断したり、会員が教会で召しや儀式を受けることを承認したりする際の標準としても採用されています。こうしたことか

ら、またほかの目的からも、知恵の言葉を守るとは、お茶、コーヒー、たばこ、アルコール性飲料を完全に断つことを意味します。判断の規準は教会全体で統一されていなければなりませんし、各地域の神権指導者は定められた項目以外に別の事項を勝手に付け加えることはできません。しかし、知恵の言葉の中で具体的に禁じられてはいなくても、人体に有害な物質はほかにもあります。また、そのほかにも健康によい食事や、賢明な食習慣もあることでしょう。しかし、それらを守れないからといって、知恵の言葉を破ったことにはなりません。

次に、ブルース・R・マッコンキー長老の言葉を引用したいと思います。

「信念の弱い人の中には、この健康に関する律法に不平をもらす人もいます。しかし、知恵の言葉は福音そのものではないし、福音とは知恵の言葉だけを指すのでもない。私たちはこの点を理解すべきである。パウロは次のように語っている。『神の国は飲食ではなく、義と、平和と、聖霊における喜びとである。』（ローマ14：17）

たとえば、教義と聖約89章では、お茶、コーヒー、酒、およびたばこは前文ではっきりと禁じられているが、漂白パン、漂白小麦粉、白砂糖、ココア、チョコレート、卵、牛乳、肉そのほかのものは禁じられていない。』（『モルモンの教義』pp.845—46）

知恵の言葉の精神にもとる有害な物質がほかにもあることは明らかです。たとえば不法な薬物がそうです。不法な薬物については特に知恵の言葉の本文で体に有害であると指摘されてはいませんが、それならば猛毒なヒ素も言及されていないと、ゴードン・B・ヒンクレイ副管長は指摘しています。

教義と聖約89章に納められた啓示は

予言者に「知恵の言葉」として与えられました。これはまさしくその言葉どおりの啓示だと言えます。啓示が下された当時(1833年2月)、それは「誠命いままじめまたは強制きやくせいに依らずして啓示ちえいと智慧の言葉によりて語られ、末の世に於けるすべての聖徒らに与えられるこの世の救いの中にある神の方式と御旨とを公にするもの」(教義と聖約89:2)として与えられました。

「これらは今聖徒と呼ばれ、ある或いは聖徒と呼ばれ得る者にして虚弱なる者、およびすべての聖徒中最も虚弱なる者の能力に適應する約束を有てる原理として下さるものなり。」(教義と聖約89:3)

後にこの啓示は拘束力を持つ戒めとして教会に正式に受け入れられ、「神の方式と御旨とを公にする」単なる戒めではなくなりました。(教義と聖約89:2)

ジョセフ・F・スミス大管長はこの理由を次のように説明しています。

「知恵の言葉が『誠命または強制』によるものとして与えられなかった確かな理由は、少なくともそのときに戒めとして与えられたら、指摘された不健全な品物を常用するすべての人々が罪の下に置かれることになったからである。慈悲深い主は、律法として定める前に、人々に克服する機会を与えられたのである。」(「大会報告」1913年10月, p.14)

主はこうした禁じられた物質の使用を警告されたときに、説明はほとんど加えられませんでした。主は、正確な科学的データを盛り込んだ詳細な論述を展開することもできたはずですが、主にあってはいつもそうであるように、戒めに従う力はおもに信仰にかかっています。知恵の言葉という禁止を伴う標準を受け入れていることで、教会員は長年の間ちやうじやう嘲笑を受けていました。ところが近年、科学的な研究によって、お茶、コーヒー、アルコール性飲料、たばこが人体にきわめて有害な影響を与えることが、どのような合理的な疑問の余地も残さないほどに立証されるようになりました。今日では、世界中ほとんどの国で禁煙運動がマスコミそのほかの手段で推進されていま

す。合衆国では成人の間で喫煙の傾向は減少しています。ただし、若者たちの間では逆に広がりつつあり、アジアでは、喫煙を勧める非常に魅力的な広告に、たばこは『……健康を害する場合があります』というあいまいな警告があえて添えられているにもかかわらず、若者と成人の両方の中でやはり驚くほど喫煙量が増加しています。

ヒーバー・J・グラント大管長は、教会の大管長として在職していた間、お茶、コーヒー、たばこ、アルコール性飲料を避けるよう絶えず聖徒たちに勧告していました。大管長は統計資料を持ち出すことはしませんでした。主のみ言葉を引用し、忠実な人々には啓示の中に示された祝福がもたらされるだろうと約束していました。グラント大管長は科学的な調査によって彼の勧告の正しさが十分立証される前に他界してしまいましたが、勧告に従うだけの信仰を持っていたほとんどの人が、当時実に多くの人々が患っていた肺がんを免れることができたのです。

知恵の言葉を忠実に守る人々には、この世的な報いとは異なった報いがあることをスペンサー・W・キンボール大管長は次のように述べています。

「罪を克服して完全に向かって進むとき、正しい将来の見通しを持つことは大切である。例えば、ある人は方法と目的を逆に行っている。多くの人は知恵の言葉の主たる目的は私たちの健康を増進し、道徳的な生活を向上させることにあると感じているようであるが、啓示(教義と聖約89章)をもっと注意深く研究すれば、さらに深遠な目的があることがわかる。もちろん、知恵の言葉を完全に守ることは、その人の肉体を強くし、長生きすることになり、その結果、肉体と、特に永遠の行く末、永遠の喜びを目指して霊を完全にすることが多くなるのである。主は、『これらの言葉を憶えて守り且つ行い、この誠命に従って歩むすべての聖徒ら』(教義と聖約89:18)に厳粛な約束を与えておられる。ここで主は二重の約束を与えておられる。まず、この戒めを守る人は、『そのへそに健康を受けその骨に髓を受け』、この肉体の健康のために『走れども疲れず、歩けども気

を失うことなからん。』これはすばらしい約束である。しかし、霊的な約束は肉体のそれよりもはるかにすばらしいものである。この戒めを守り、その他のすべての戒めに従順な人々は、祝福を増し加えられるのである。主は約束しておられるが、このような聖徒たちは殺戮ころの天使から守られ、殺されることがない。この約束は私たちにエジプト記を思い出させる。ここで主は、イスラエルの民が偉大なモーセに従うかどうかで彼らの信仰を試されたのである。

知恵の言葉に関する啓示で与えられている約束は、比較してみればわかる通り、古代のイスラエル人が受けた約束と似ている点もあれば似ていない点もある。どちらの場合も過越しの要素と、すべての理由はわからないがそれでも従うという信仰に基づく従順という要素がある。『信仰に基づく従順』が根本になっている。これがなければ奇跡は起こり得ない。もしイスラエルの民が従順でなかったとすれば、彼らの長子は守られなかったであろう。

知恵の言葉を守ることに對する報いは命である。この世で長生きするだけでなく、永遠の生命をも得るのである。知恵の言葉の約束にはこれを忠実に守る人は死なないとはない。『アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。』(Iコリント15:22)古代のイスラエルの民の場合には、肉体的な命であり、死であった。私たちに与えられている近代の約束では霊的な命であり、死である。私たちが『これらの言葉』を無視し、『誠命に従って歩む』ことをしなければ、死は確実である。しかし、これらのことに厳密に従えば、完成に到達し、永遠の生命を得る。殺戮の天使は不従順の故をもってこの世での生涯を縮め、光明の天使は永遠の霊の命への道を明らかにする。」(「赦しの奇跡」 pp.220-21)

お茶、コーヒー、アルコール性飲料、たばこなどは、有害であるとは思ってもせずに飲用し始める場合があります。教会や知恵の言葉を知らなかった人々の場合、多くはまだ若いうちにこうし

た禁じられた物質のいくつかを飲用し始めました。知り合いからお酒を飲んだりたばこを吸ったりするように勧められた人もいれば、「末の世に於て悪しきを企つる人々の心中に現在存し、また将来在らんとする悪と企図……」(教義と聖約89：4)により、広告やそのほかの手段でこれらの物質を用いるよう誘惑された人もいるでしょう。ところが末日聖徒の家庭で育った会員や、若い時代にこうした物質が本質的に危険であり、「神の方式と御旨」(教義と聖約89：2)に背くものであることを教えられた会員たちが、この戒めを破りこの世と霊の福利を軽視して、反抗的な兆しを示しています。禁じられた

物質には常習性があります。まだ飲用の初期の段階にとどまり、我慢できなくなって中毒症状を示す以前であれば、冒頭で述べたあのつるの柔かい芽のように、容易に断つことができます。しかし、中毒状態に陥れば、その習慣は容易には抜けなくなるでしょう。目の前にお茶やコーヒーが出れば自然と手が伸び、たばこに火をつけ、ウイスキーの「ストレート」やビールを飲むようになってしまいます。やがて、寄生して木よりも強くなったつるがもとの木の成長を阻害するように、習慣が人を支配するようになるのです。そのようになった人は習慣の力に押し流され、自由に生活できなくなり、多くの喜び

や美しさが失われたり損われたりします。また健康は害され、生命までも危険にさらされ、失われてしまうことすら往々にしてあるのです。もっと大切なことは、飲用者は約束された霊的な祝福まで奪われてしまうという点です。信仰に基づく従順は、永遠の生命を得るためになくしてはならないものであると言えます。

#### アジア地域会長会

マーリン・R・リバート

W・ユージン・ハンセン

モンティ・J・ブラフ

### チャーチニュース

ローカル

## どのような状況にあっても 幸福な生活を送るには

**私**はこれまでの人生のうち、多くの逆境に遭遇し、多様な対処の仕方を学んできました。そして「何が起きたか」という事実よりも、行く手に立ちはだかる逆境に「どのように対処してきたか」が自分を変えてきたのだ、ということがわかりました。長年にわたり、私は以下のことを行なうことにより助けられてきました。

- 聖典を学び、霊的で精神を高揚する記事や本を読む。
- 毎日朝夕祈る。私は天父に祝福を感謝するだけでなく、逆境や霊的に成長できる機会を感謝します。
- 助けを必要としている人に援助の手を差し伸べる。私は奉仕の機会に恵まれるように祈ります。「だれでも人を救おうとする者は己をも救う。これはこの世で最もすばらしい報いのひとつ

である」というラルフ・ウォルドー・エマーソンの言葉にあるように、私は自分を哀れまないようにしています。なぜならば、常に自分よりも困難な状況にある人がいるからです。

● 定期的に運動する。運動によって緊張感がほぐれ、精神的にも肉体的にも癒されます。

● ユーモアのセンスを持つ。私は小さなことでも喜び、笑えるように心がけています。笑いは意気消沈しているときの良い治療法です。

シャーリーン・サウスウィック  
ユタ州オレム

#### ■ 決してあきらめない

イエス・キリストが人類を贖い、人類を神に和解させたことにより、私たちはいかなる状況においても幸福な人

生を送ることができます。教会、国家、家族、全人類に献身的に仕え、すべてのことに対して全力を尽くすときに真の幸福が得られるのです。決してあきらめてはいけません。

ポール・J・パリッシュ  
カリフォルニア州ホイッチャー

#### ■ 霊の豊かさ

ペルー、リマの宣教師として、私はどのような状況にあっても幸福な生活を送っている多くの会員、そしてまだバプテスマを受けたばかりの新会員を見てきました。彼らは物質的には貧しくても霊においては豊かです。それは彼らが以下のことを行なっているからです。

- 家族で共に聖典を読む。
- 家族で共に祈る。

- 毎週日曜日、教会に出席する。
- 聖典や教会の集会で学んだことを実生活に取り入れる。(I ニーフアイ 19:23)
- 永遠の生命を受けられるよう、忠実に福音に従って生活する。(II ニーフアイ 31:20)
- 祝福に気づき、感謝する。(イテル 6:9)
- 主は私たちが強くなれるよう試練を与えてくださることを忘れない。(教義と聖約105:19)  
デビッド・ソウビー長老  
ペルー・リマ東伝道部

### ■神の子

私たちを見守り、心にかけてくださる慈愛あふれる天父の息子、娘であると知ることは、この地上で探求すべき事柄のひとつです。ひとたびこのことに気づくならば、どのような状況においても、幸福な生活が送れるでしょう。  
イブリン・マッギシー  
オーストラリア・ニューサウスウェールズ州コールポイント

### ■正しい見方

昨年いっぱい私はがんの治療を受け、現在は放射線治療を受けています。私たちの自家用車は1966年型で、家も修理が必要なほどです。人は皆、私がこのような状況の中でどうしてほほえみを絶やさずにいられるのか、と尋ねます。私は以下のことに心がけ、前向きな姿勢を保っています。

- 主に対する信仰を持つ。
- 正しい見地に立って物事を見る。重要なことのみ心に向ける。
- 聖霊の声に耳を傾ける。
- 聖典を学ぶ。
- 家族や友人の必要に関心を持つ。  
キャシー・ウッドラフ  
ユタ州ウエストバリーシティー

### ■心の持ち方

私は5人の娘を持つひとり親で、子供のふたりまでが**嚢胞性線維症**(訳者注: すい臓、肺などに嚢胞ができ、消化、呼吸困難を起し正常な成長を妨げる遺伝的慢性病)という病気を持っていますが、幸福は心の持ち方次第で

ある、ということに気がつきました。

私はよく「一体どうやっているの」と尋ねられます。私は天父により、そして天父が私たちに与えてくださった福音の計画により、力や平安や慰めを得ています。この知識によって私たちの家族も周りの人々も心が明るくなり高められるのです。

私たち自身が物事をどのように受け止め、行動するかによって私たちの幸福が左右され、またその状況に対するほかの人の見方も違ってきます。  
アイリーン・B・スティーブンス  
イリノイ州ロチェスター

### ■命綱

数年前、私が個人的に重大な問題に直面していた時、ワード部のある召しを受けるよう要請がありました。私はその召しを引き受け、責任をよく果たす努力をしました。一年ほどたった時、私はその召しが私の命綱であることに気がつきました。

「さてわが子らよ。お前たちは神の御子でキリストである私たちの贖い主の岩を基にしなくてはならないことを忘れるな。贖い主の岩を基にするならば、悪魔がその大風を吹かせて柱のように立つつむじ風をまき起すとき、また悪魔の雹と暴風雨とがお前らを打つとき、悪魔はお前らに打ち勝って不幸の淵と永遠の悲惨にお前たちをひき落す**能力**はない。なぜならば、お前らの立つ岩は堅固であって人がその上に立つと倒れることのできない基であるからである。」(ヒラマン5:12)

M・E・モーガン  
マサチューセッツ州ケンブリッジ

### ■態度の変化

予言者の勧告に従い家庭に入るため、充実した仕事をやめた私は、3人の幼い息子たちの母親としての、また専業主婦としての新しい生活になかなか慣れることができませんでした。ところが、ある日の出来事を境に私の態度は一変しました。その日息子が5回も「つまらない」と文句を言いに来ました。私はぬり絵からコンピュータまである、おもちゃでいっぱいの部屋を見渡し、どうしてつまらないなどという

ことがあるのだろうか、と思いました。

その夜祈りの中で、私は自分ももっと幸せになれるように、そしてもっと母親として充実した生活が送れるようにと、主に嘆願していました。突然、私はおもちゃであふれた部屋にいながら退屈している息子に落胆したように、快適な生活環境の中で多くの賜と才能に恵まれていながら不満を感じている私に対して天父が落胆されている姿を見たような気がしたのです。  
ステイシー・チャイルド・ウィークス  
ネバダ州カーソンシティー

### ■試練の中の喜び

8歳になる長男のジェフリーは自閉症児です。息子が自立できるように教え、話のできない息子と毎日接しながら、理解できないことを一つ一つ説明してあげなくてはならない生活はとてもつらいものです。自閉症はなんという試練でしょう。

今年の秋のある日私たち家族はパレードを見に行きました。とても暖かい日で、私たちは大きな木の下に腰を下ろしました。

ジェフリーはその木を見てとても感激しました。にっこりとほほえみ、私を見つめ、とてもはしゃいでいました。私がそばに座っていると、突然、彼は私の方へ手を伸ばし、私を引き寄せ、そして私を抱きしめたのです。彼が自分から私のことを抱きしめたのは初めてのことでした。このような経験を思い起こすと、私は自分に課せられた特別な試練に喜んで対処することができ、思うととても楽しみです。

ジーマ・ウィーパー  
ケンタッキー州ルイスビル

### まとめ

1. 自分が神の子であることを悟り、主に対する信仰を持つ。
2. 聖典を読み、学んだことを実生活に応用する。
3. いつも正しい見方をするように努め、良い態度を身につける。
4. 感謝の気持ちで人のために奉仕し、感謝の祈りを捧げる。

# 日本宣教師訓練センター所長、 新たに召される

**大** 管長会は、ハワイ、ワヒアワ出身の赤木健二兄弟(65歳)を、新たに日本宣教師訓練センターの所長に召した。

元神戸伝道部伝道部長を務めた赤木所長は、高等評議員、七十人定員会会長、副監督を歴任。妻のジーン・赤木姉妹は初等協会、扶助協会、若い女性の各会長会で責任を果たしてきた。

なお、これまではラルフ・N・士野

兄弟が1989年2月以来2年にわたって所長を務め、381人の宣教師の訓練にあたった。「忙しい中毎月教えてくれた先生方や指導者、神殿長、神殿宣教師に感謝しています。この方々のお陰で楽しく責任を果たせました。

宣教師には、同僚や求道者を愛し、謙遜けんそんになって教えるならば、みたまにより『共に徳に導かれ』る(教義と聖約50:22)ことを中心に教えてきました。

短期間のうちに自信を持ち、積極的な考え方を身に付けて任地に出発する宣教師たちを見ると、本当にうれしく思います。そして教えた宣教師たちがさらに深い愛を携えて帰還してくるのを見るのも、大きな喜びです。」士野前所長はこう語っている。

全世界に広がる宣教師訓練センターは、宣教師を主の軍勢として伝道に備えさせるうえで役立っている。現在こうした宣教師の4分の1は合衆国以外の国の出身者たちで占められている。どの宣教師訓練センターも同じ訓練教材、ガイド、手引きを用いて、毎年、200人から800人の宣教師たちに訓練を施しているが、最大規模の訓練センターはユタ州プロボにあり、ここでは毎年1万8,000人の宣教師たちが訓練を受けている。

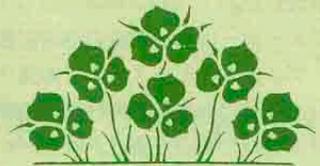


赤木健二所長ご夫妻



ラルフ・N・士野前所長ご夫妻

## 女性の声



1991年に行なわれる扶助協会150周年記念祭に関連して、中央扶助協会会長会は、全世界の末日聖徒の女性たちの声を聞きたいと思っています。女性であり教会員であることについての思い、改宗談、悩み、希望や夢などについての原稿をお寄せください。母国語で書かれた手書きの原稿でもかまいません。

宛先は以下のとおりです。

Women's Voices  
c/o Relief Society  
76 North Main Street  
Salt Lake City, Utah 84150  
U. S. A.

## 誤配された手紙からの改宗

横浜ステーキ部川崎ワード部  
鈴木ナヲ

主人の転勤で移り住んでいた北海道から横浜に戻って1年以上もしてから、高橋宣子姉妹の家に1通の手紙が転送されてきました。この手紙は同じ高橋姓の女性あてで、町名までは以前の住所と同じでしたが肝心の名前が違っており、番地が足りなかったため本人に送ることもできませんでした。そこで高橋姉妹は、見も知らぬアメリカの差し出し人に問い合わせの手紙を書くことにしました。その人柄のゆえに友人も多い高橋姉妹にとって、誤配された手紙ひとつに対しても丁寧に英語で問い合わせの手紙を書くのは自然なことでした。これがきっかけとなり、1988年7月、高橋姉妹と手紙の差し出し人、ジェーシーとの文通が始まりました。

ジェーシーは末日聖徒の帰還宣教師で、ブリガム・ヤング大学で勉強する傍ら、大学の人文科学の研究所で働いていました。彼の仕事は、コミュニケーションの研究の一環として、シニアヘルプラインという合衆国のあらゆる地域からフリーダイヤルで掛かってくる老人からの電話に対応することでした。高橋姉妹にとっては、彼のような若い青年が、知恵もある経験豊かな人の話を聞いてアドバイスをし、深い愛と関心を示せることは、とても不思議なことでした。

ある時ジェーシーは、彼が担当する老婦人が外国人との文通を望んでいると知らせてきました。高橋姉妹は早速承諾し、ふたりの文通が始まりました。アイダホ州に住むこの婦人は、老人性痴呆症の夫を30年も看病していました。本人も小さな事故がもとで健康を害していたにもかかわらず、体の不自由なご主人をいたわり、愛し続けていました。彼女が自分の身に降りかかった不幸な出来事を嘆いたとしても不思議は



高橋宣子姉妹(左)とジェーシー

ありませんでした。けれども愚痴を一切こぼさず、ただ感謝し続ける彼女の姿には、心を打たれるものがありました。後で知ったことですが、彼女もジェーシーと同じ末日聖徒でした。

ジェーシーとの文通が始まって1年ほど過ぎた去年の晩春、手紙を通して知り合った人々の生きる姿勢を通して、高橋姉妹の心に宗教に対する興味がわいてきました。手紙でジェーシーにその気持ちを伝えると、早速テープで教会のことを教えてくれるようになりました。何回目のことだったでしょうか。モルモン経の説明や証のテープや教会の住所などと一緒に、モルモン経が送られてきました。ジョセフ・スミスの証を聞いても特に反発することもなく、むしろ素直に心に入ってきました。モルモン経を読み始めると、毎日宗教のことで頭が一杯になり、そちらに向いていく心をどうすることもできませんでした。

しかし、教会に行きたいという気持ちが初めからあったわけではありません。いつかは行くことになるとしても、まだその時期ではないと思ってしまし

た。5月31日、友人と初めて川崎に遊びに行ったとき、教会に行くのかどうか聞かれたときにも、「秋ごろになったら行くかもしれないけれど、今は行かない」と答えていました。

しかしその夜、再びジェーシーから送られたテープを聞いていると、心の中に「何も恐れることはない。明日教会に行ってみよう」という強い気持ちがわいてきたのです。

翌朝ジェーシーから聞いた住所を頼りに横浜の教会を訪ねてみると、玄関は閉まっており、人の姿もありません。あきらめて帰ろうと思いましたがふと裏口へ回って声をかけてみると、宣教師が出てきました。事情を話すと高橋姉妹の家にもっと近い川崎の教会の住所を教えてくださいました。「川崎の教会には日を改めて行ってみよう」と思い帰途につきました。電車を乗りかえるために下車して外に出ると、そこは川崎の教会の最寄りの駅であることに気づき、目の前にあった交番で道順を聞くと教会の場所は偶然にも前日友人と歩いた道のすぐ近くでした。迷うこともなく教会を見つめることができ、着いてみると、玄関の外の石に、あたかも高橋姉妹を待っていたかのように宣教師が腰掛けていました。宣教師はすぐにレッスンをしてくれ、その帰り道には心の中に温かい気持ちがあふれてきました。このことを手紙でジェーシーに知らせると、彼は心から喜んでくれました。

宣教師のレッスンとモルモン経の勉強を続けていたある時、毎年友人たちと行っている海外旅行の行き先がアメリカ西海岸に決まりました。サンフランシスコやラスベガスはユタからは大変な距離にあります。ジェーシーに会うなどとてもない望みであると知りながらも、どこか心の隅に彼に会ってから教会に入るのではないかと感じていました。旅行の日程を知らせると、ジェーシーは友達と車で長い旅をして会いに来てくれ、彼の深い愛を感じました。

高橋姉妹自身もそれまでご主人ともどもいつも人に愛を示してきていました。見知らぬ中国人の保証人になったこともありました。街角の雑踏の中で

道を尋ねられたフィリピンの男性の、日本に出嫁ぎに来た奥さんに裏切られた、苦しく悲しい胸の内を聞いてあげたこともありました。ロンドンを旅したときには、空港で知り合ったニュージーランド出身の84歳の老人の話にやさしく耳を傾け、今も連絡を取り合っています。高橋姉妹はどんな人にも関心を寄せ、哀れみの気持ちを示し、人を愛して、福音を知る前からイエス・キリストの歩まれた道を歩んでいたのです。

昨年12月30日、高橋姉妹はバプテスマを受けました。イエス・キリストでさえ「あらゆる<sup>たが</sup>義しいことを尽すために水でバプテスマを受け」られたのなら、自分もその模範に従う必要があると考えたからです。(II ニーファイ 31:5)

「ひとりの青年の限りない愛と、彼の両親や友達を示してくれたキリストの愛、ある老婦人を通して教えられた深い夫婦愛と主に対する信頼に感動し、この福音を知るに至りました。そして私たちがイエス・キリストの純粋な愛によって、国や年齢をはるかに超越して結ばれた兄弟姉妹であることを、私は知ったのです。1通の間違って配達

された手紙は決して単なる偶然ではなく、まさに神様の導きだったのです。」  
バプテスマ会で証された高橋姉妹のこ

の言葉は、本当に印象的でした。(すずき・なを ワード部扶助協会教育担当副会長)

## みたまがおしえてくれたこと

盛岡地方部一関支部  
古川恵二郎



仙 台に住んでいた今から2年前、小学3年生の5月の土曜日、学校から帰って近くの広瀬川にお兄ちゃんと釣りに行きました。お兄ちゃんはさきに帰り、ぼくは場所を変えて釣っていました。暗くなってきたのでそろそろ家に帰ろうと思って自転車の所に行ったら、かぎがポケットの中にありません。もっとよくさがしてもありません。今まで通った所をもどってよくさがしたけど見つかりません。ぼくは、なきながらいっしょうけんめいお祈り

しました。すると「さいごにいた砂山をさがしなさい」と心に小さな声が聞こえました。それでぼくは、その場所に行つてさがしたら砂の中に少しずずが出ているを見つけました。それはぼくの自転車のかぎでした。ぼくはほんとうにうれしくなりました。

神様とイエス様がみたまによっておしえてくれたことをかんしゃします。だれも見えていなくても神さまがみてくれて、たすけてくれることがわかりました。(ふるかわ・けいじろう)

## 芸能界で活躍中の兄弟姉妹マックスウェル長老の朝食会に

去る1月25日朝、東京港区にあるホテルで、日本を訪問中の十二使徒評議員会会員ニール・A・マックスウェル長老ご夫妻ならびにアジア地域会長会第一副会長W・ユージン・ハンセン長老ご夫妻主催の朝食会が行なわれた。会には、現在テレビや映画で活躍中の斎藤由貴姉妹とご両親、ケント・ギルバート兄弟ご夫妻、ケント・デリカット兄弟ご夫妻が招待され、朝のさわやかな空気のもと、食事を共にしながら今後の伝道の展開のことや日ごろの芸能活動に関する話など、なごやかな雰囲気で行なわれた。

マックスウェル長老は、ダリン・H・オークス長老に代わって新たにアジア地域の担当となり、今回は沖縄と岡山のスチーキ部大会も管理された。今後たびたび日本を訪問される予定で



ある。また、ハンセン長老はアジア地域会長会の中で日本を直接担当される。両長老の靈感あふれる指導を期待す

るとともに、朝食会に出席した斎藤姉妹、ギルバート兄弟、デリカット兄弟のさらに大いなる活躍を祈りたい。

## 1月に召された専任宣教師

139期生 24人



後列左から1-8, 中列左から9-16, 前列左から17-24

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 今井秀典	札幌西S / 藻岩W	福岡伝道部
2. 山田豊	東京南S / 大岡山W	福岡伝道部
3. 上撫智也	大阪S / 大阪W	仙台伝道部
4. 西口正士	大阪堺S / 羽曳野W	福岡伝道部
5. 五十嵐貴則	札幌S / 豊平W	東京北伝道部
6. 菱沼博之	東京北S / 川越W	福岡伝道部
7. 小野健	仙台S / 山形W	東京南伝道部
8. 半田智之	札幌西S / 藻岩W	福岡伝道部
9. 本間由佳	札幌西S / 新琴似W	東京北伝道部
10. 池上亜希子	鹿児島D / 川内B	岡山伝道部
11. 齋藤嘉代子	福岡S / 福岡W	東京北伝道部
12. 片村千加子	福岡S / 北九州W	仙台伝道部
13. 岡田智子	熊本D / 大分B	神戸伝道部
14. 津嘉山淳子	福岡S / 福岡W	仙台伝道部
15. 片岡由香	横浜S / 横浜第2W	東京北伝道部
16. 友井奈美子	広島S / 安古市B	神戸伝道部
17. 密山睦美	北陸D / 富山B	福岡伝道部
18. 山中妙子	釧路D / 帯広B	東京南伝道部
19. 渡部由美	札幌西S / 新琴似W	東京南伝道部
20. 野依真江	福岡S / 中津B	東京北伝道部
21. 渡辺千里	東京南S / 渋谷W	名古屋伝道部
22. 井上智恵	大阪S / 東大阪W	仙台伝道部
23. 馬場富士代	大阪S / 枚方W	東京北伝道部
24. 住田雅美	広島S / 高須W	東京南伝道部

S : スターキ部, D : 地方部, W : ワード部, B : 支部

## 新役員の内命

1990年12月7日から1991年1月8日まで  
に管理本部会員統計記録課に通知の  
あった役員の内命(敬称略)

- 広島スターキ部呉支部  
新支部長: 杉原賢樹  
(前任者: 佐々木勉)
- 東京西スターキ部富士吉田支部  
新支部長: 渡辺喜信  
(前任者: 西室要)
- 東京南スターキ部 Tokyo English  
1st Ward  
新監督: Stephen Bigelow Gasser  
(前任者: Graham Young Doxey)

## 編集室から

皆さんの原稿を  
募集しています

- ▶ ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など)、本誌を読まれての感想文などをお送りください。
  - ▶ これまでローカルページでは証の著者の生年を記載しておりましたが、今後は記載しないことになりました。ただし編集作業の参考のため、投稿の際には従来どおり連絡先(電話番号)、教会での責任(役職名)に併せ、生年を記入してお送りください。
  - ▶ 1991年5月号掲載分の締切は3月25日です。お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますのであらかじめご了承ください。
  - ▶ あて先: 〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室
- ☎03(3444)5264